２－５．管理運営の現況

（１）管理概要

①大濠公園

大濠公園の管理運営については、現在、以下の方針に基づき、指定管理者による管理運営が実施されています。また、管理運営の範囲及び業務概要としては以下に示すとおりです。

■管理運営方針

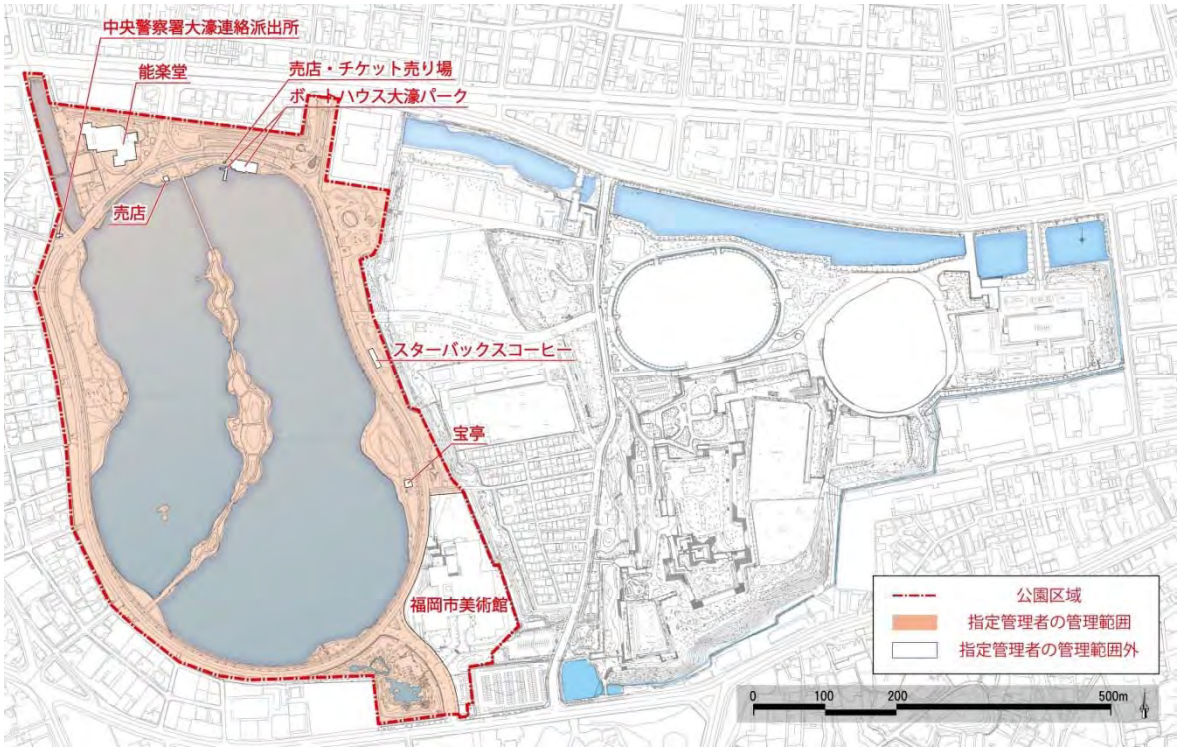
１．基本方針：福岡県を代表する公園であり、県内外から多くの観光客が訪れる「水と緑のオアシス」として、池や植物を大切に保護し、四季を通じて県民の憩いの場として親しまれる公園として管理運営を行います。

２．運営管理：公園施設を有効に活用しながら、水と緑のオアシスとして県民の多様なニーズに応えるべく、利用者に対して平等なサービスを提供し、公園利用の促進を図ります。

３．施設管理：公園施設及び備品の機能を適正に保持するとともに清潔に管理し、来園者の快適かつ安全な利用を図るため、年間計画に沿った維持管理及び保守点検を行います。また有料施設である日本庭園及び駐車場の管理を行います。

４．植物管理：池の周囲に配した植栽地等を管理するため、年間計画に沿った植物管理を行います。

■管理範囲



図：管理範囲図

■業務概要

１．福岡県都市公園条例（以下「条例」という）第２条第１項の利用の承認に関する業務（有料施設に係る利用承認や利用料金の徴収、安全対策等）
２．条例第４条の公園内での行為の制限等に関する業務（行為の制限・許可、許可使用料の徴収）
３．都市公園の諸施設の維持及び保守に関する業務
　（１）園内清掃業務（トイレ含む）
　（２）植物管理業務
　（３）大濠池管理業務
　（４）日本庭園管理業務
　（５）有料駐車場管理業務
　（６）建物管理業務
　（７）施設設備保守点検業務
　（８）施設設備の修繕等
４．その他の業務
　（１）公園内の管理運営業務（園内の巡回指導、園内の安全点検及び安全確保、利用相談・苦情受付・対応、地元との協議・調整、夜間警備業務、庶務等）
　（２）公園管理の企画調整、ホームページの管理等
　（３）自主事業

写真：注意看板の設置作業

写真：インターロッキングの補修作業

②舞鶴公園

舞鶴公園の管理運営については、現在、以下の方針に基づき、指定管理者による管理運営が実施されています。また、管理運営の範囲及び業務概要としては以下に示すとおりです。

■管理運営方針

＜運営管理方針＞

1．公園の特性を十分理解し、指定管理者のノウハウを発揮しながら、その特性を踏まえた管理運営を行うことで、適切な管理水準を確保すること。公園の特性、運営方針については、「福岡市　新・緑の基本計画」を参照すること。

2．公園において市民との協働を積極的に推進し、公園の運営や維持管理、緑化推進等に寄与する活動を推進する。

3．利用者の多様なニーズに応えるため、常に利用者の要望等を聴取し管理運営に反映させるとともに、管理事務所を利用者への利用案内や情報発信のサービス拠点として運営する。

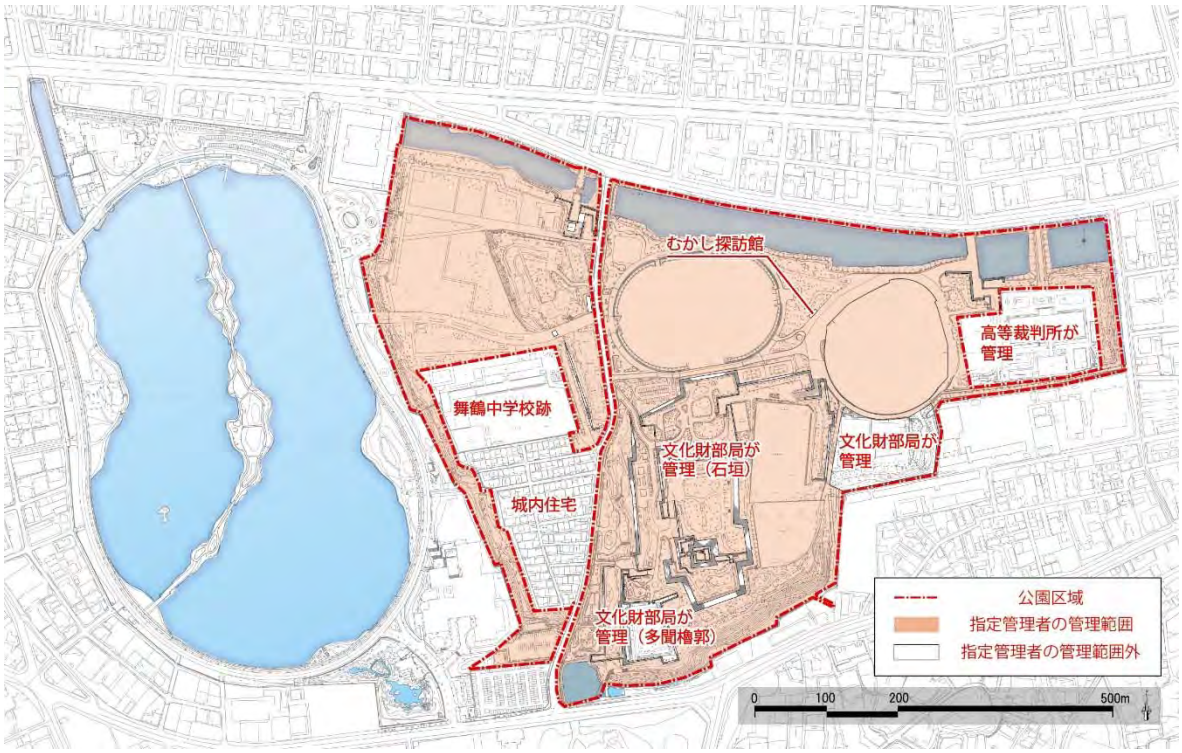
4．常に公園利用の促進に努めるとともに、管理運営に当たっては、特に地元自治会・団体等との連携を図る。

＜維持管理方針＞

1．植栽地管理（植込地、芝生、樹木、草地等管理）については、各植物の特性に配慮したうえで、適正に持続・育成するよう必要な管理を行う。

2．施設や設備については、各種施設の位置、機能、特性を充分に把握した上で、すべての施設の機能を保持し、利用者の快適かつ安全な利用を図るよう必要に応じて保守点検を実施し、適正な維持管理を行う。

■管理範囲



図：管理範囲図

■業務概要

１．管理運営業務
　（１）施設利用者の受付等
　（２）施設使用料の徴収事務
　（３）施設使用料の減免に関する事務手続
　（４）事業計画書で提案した自主事業業務
　（５）園内施設の維持管理
　（６）樹木、芝等植物育成管理
　（７）清掃及びゴミ収集と処理
　（８）巡視・点検
　（９）警備業務
　（10）駐車場の管理及び不法利用者等への指導
　（11）火災報知器、機械設備等の管理
　（12）園内及び園外の苦情処理業務
　（13）軽微な修繕（１件 30 万円以内）
２．施設の運営に関すること
３．施設点検に関すること
４．使用料に関する事務
５．事業報告書
６．園地及び建物の維持管理に関すること
７．その他（管理責任者の配置、緊急・防犯・防災対策マニュアルの作成、個人情報保護等）

写真：濠のハスの葉撤去作業

写真：フジ棚の剪定作業

（２）管理体制

①大濠公園

大濠公園では、平成 18 年から一般公募における指定管理者制度が導入され、民間企業による管理運営が始まり、現在で第４期目となっています。大濠公園の管理運営業務は、福岡県営西公園と合わせて発注されています。これまでの大濠公園の変遷は以下のとおりです。

■管理運営業務契約者の変遷

期間	契約者
～平成 17 年度	(財)福岡県公園管理センター
平成 18～20 年度	にしてつグループ公園管理団体
平成 21～23 年度	にしてつグループ公園管理団体
平成 24～28 年度	にしてつグループ公園管理団体
平成 29 年度～	にしてつグループ公園管理団体

※(財)福岡県公園管理センターは現在解散
※にしてつグループ公園管理団体は、㈱西鉄グリーン土木を代表とした共同企業体
（構成：㈱西鉄グリーン土木、西鉄ビルマネージメント㈱・㈱西鉄エージェンシー）

そのような中、大濠公園では現在「大濠公園を良くする会」という 1,000 人以上の会員を有する団体が組織され、7 つ（ゴミ・清掃、犬・猫、通行レーン、魚釣り・池、花壇・緑地、安心・安全・風紀、アメニティーイベント）の委員会に分れて活動を行っています。この会には、大濠公園指定管理者のほか、福岡市美術館、能楽堂、スターバックス、ボートハウスなどの事業者等も入会しており、月に１度、全体会議の中で各委員会や施設の代表者が集まり、イベントやボランティア活動等の調整を行っています。

この会議の中での方針を踏まえ、毎月１度 50 人程度の参加者による大濠公園内の清掃や、ランニングコース沿いに設けられた市民花壇における管理活動など、市民参加の体制の中で管理運営を行っています。

そのほか、福岡大村美容ファッション専門学校における授業の一環としての公園内外の清掃、花壇の植栽など、公園周辺施設との連携も取り入れています。

写真：大濠公園を良くする会の会議や清掃活動の様子

②舞鶴公園

舞鶴公園では、平成 18 年より福岡市が所管する大規模公園において指定管理者制度が導入されて以降も、二つの国史跡を有する公園であるということや、市を代表する集客イベントがあることなどの特殊性から、これまで非公募により「（公財）福岡市緑のまちづくり協会」が指定管理者として選定されてきました。

■管理運営業務契約者の変遷

期間	契約者
～平成 17 年度	(公財)福岡市緑のまちづくり協会
平成 18～22 年度	(公財)福岡市緑のまちづくり協会
平成 23～27 年度	(公財)福岡市緑のまちづくり協会
平成 28～令和２年度	(公財)福岡市緑のまちづくり協会

そのような中、舞鶴公園では現在、福岡城むかし探訪館を起点としたＮＰＯによる歴史ガイドや公園周辺の企業による清掃ボランティアも実施されています。また、舞鶴公園フラワーボランティアによる花壇づくりも行われるようになってきました。

写真：歴史ガイドによるツアーの様子

写真：舞鶴公園フラワーボランティアの活動の様子

（３）情報発信

①大濠公園

イベント情報は、ホームページでの掲載のほか、スターバックス、ボートハウスでのチラシの配布、掲示板での案内等を中心に情報が発信されています。

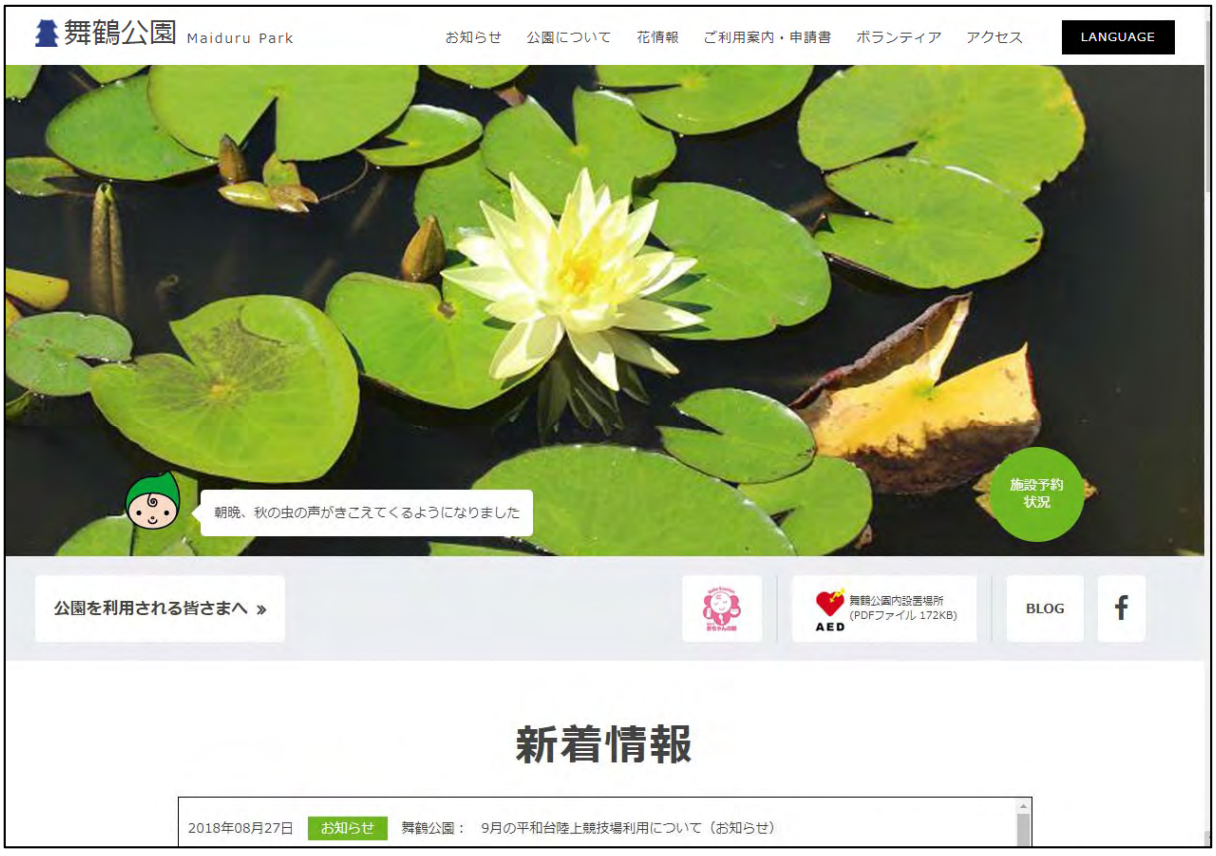
大濠公園と西公園共通のパンフレット

大濠公園のホームページ

②舞鶴公園

イベント情報は、管理事務所や福岡市美術館でのチラシの設置のほか、以下のようなホームページ上での広報、また、記者クラブへの積極的な情報提供による、新聞への掲載等に取り組んでいます。

舞鶴公園のパンフレット



舞鶴公園のホームページ

（4）イベント・利用プログラム

①大濠公園

大濠公園では、ランナーを対象とした講習会や、池を利用したカヌー教室が行われています。日本庭園では、茶会や将棋教室等のイベントが定期的に開催されています。また、園内の草花の育成がイベントの一環としても行われています。

表：平成 30 年度イベント予定表

時期	名称	実施主体
５月	ゴールデンウィーク期間の花自動車展示	
	日本庭園「新緑の会」	大濠公園自主事業
	大濠と福岡の子供を繋ぐひまわりプロジェクト	大濠公園自主事業
８月	子ども教育将棋教室	大濠公園自主事業
	「しごと体験スクール」大濠パークレンジャークラス	
10 月	ランニング練習会（ランニング・クリニック）	大濠公園自主事業
11 月	もみじ会・新風の会	大濠公園自主事業
	大濠公園「月を見る会」	
	大濠公園池カヌー教室	大濠公園自主事業
	花育成イベント　チューリップ（～翌４月）	
12 月	ウィンターイルミネーション（～翌１月）	大濠公園自主事業
１月	大濠・西公園災害対応訓練（ＤＩＧ）	
２月	ランニング練習会（ランニング・クリニック）	大濠公園自主事業
通年	日本庭園茶会館　抹茶有料サービス	大濠公園自主事業

表：主なイベント・利用プログラム

名称	ゴールデンウィーク期間の花自動車展示	大濠公園と子どもたちを繋ぐひまわりプロジェクト	子ども教育将棋教室	日本庭園「新緑の会」・「新風の会」
概要	 「博多どんたく港まつり」で運行される花自動車が大濠公園能楽堂前に展示される。	 花を慈しむ心と公園への愛着心の醸成を目的に、ひまわりの種まき・苗植え・種絞り・ひまわり油づくり等や写生大会、美術館作品展示が行われている。	 将棋を通して、子どもたちの学ぶ力・考える力を育てることを目的に、講義と将棋大会が行われる。	 日本庭園の魅力を感じてもらい、癒しの空間を提供するイベント。
分類	集客	子ども・花	子ども	文化
時期	5月	5月～8月頃	8月	5月・11月
場所	能楽堂前	公園内花壇	日本庭園茶会館	日本庭園茶会館
参加者	約4,400名	約400名	不明	約100名

名称	大濠公園「月を見る会」	大濠公園ウィンターイルミネーション	ランニング練習会（ランニング・クリニック）	日本庭園茶会館抹茶有料サービス
概要	 望遠鏡で月の観察を行うイベント。	 冬の公園風物詩を目指し、3万球のＬＥＤ電球を使用したイルミネーションを実施。	 ランナーのスキル向上や公園利用でのマナーの向上を目的に、ランニングに必要な筋肉を鍛えるトレーニングや体幹運動などの基礎トレーニングの方法の指導が行われている。	 毎月第１・第３火曜日の茶室・茶会館の無料開放日に合わせて、抹茶と菓子の提供が行われている。（300円）
分類	自然	集客	スポーツ	文化
時期	11月	12月～翌2月	10月・2月	通年
場所	大濠公園くじら公園	大濠公園駐車場出口付近から浮見堂	大濠公園	日本庭園茶室・茶会館
参加者	不明	約20万名	約20名	不明

②舞鶴公園

舞鶴公園では、一年を通して以下のようなイベントが行われています。舞鶴公園の顔でもあるさくらをはじめとした四季折々の樹木や花を鑑賞するイベントやスポーツイベント、食や物販のイベントが中心的に行われています。

表：平成 30 年度イベント予定表

時期	名称	実施主体
３月	福岡城さくらまつり（～４月）	市主催事業
	親子サッカー教室	舞鶴公園自主事業
４月	春の植物ガイド	舞鶴公園自主事業
	キャンプイベント	民間事業者
	福岡城藤まつり	舞鶴公園自主事業
	食イベント	民間事業者
	人力車導入の実証実験	市主催事業
５月	緑のコーディネーターによる体験講座	舞鶴公園自主事業
６月	ラブアース・クリーンアップ 2018	市主催事業
７月	キャンプイベント	民間事業者
	みどりのまちマルシェ	舞鶴公園自主事業
８月	みどりのまちマルシェ	舞鶴公園自主事業
	福岡マラソン 2018　100 日前イベント	市主催事業
９月	防災キャンプ IN 舞鶴公園	市主催事業
	食イベント	民間事業者
	みどりのまちマルシェ	舞鶴公園自主事業
10 月	市民スポーツフェスタ 20018	市主催事業
	みどりのまちマルシェ	舞鶴公園自主事業
	どうぶつ愛護フェスティバル	市主催事業
11 月	秋の公園であそぼう	舞鶴公園自主事業
	みどりのまちマルシェ	舞鶴公園自主事業
	平和台リレーマラソン	保健福祉局健康増進課
12 月	福岡国際マラソン	日本陸上競技連盟 朝日新聞社 テレビ朝日 九州朝日放送
２月	福岡城梅まつり	舞鶴公園自主事業
通年	舞鶴自然ウォッチング	舞鶴公園自主事業
	三ノ丸広場バーベキュー事業	舞鶴公園自主事業
	ラジオ体操サービス	舞鶴公園自主事業

表：主なイベント・利用プログラム

名称	福岡城さくらまつり	福岡城藤まつり	緑のコーディネーターによる体験講座	ラブアース・クリーンアップ
概要	 桜の夜間ライトアップ、さくらグルメ屋台、クイズラリー、軍師官兵衛の企画展など、福岡市を代表するさくらのイベントの一つとなっている。	 再生させた藤棚の下でカフェやお城めぐりなどが実施されている。	 緑のコーディネーターによるクラフト・工作等の講座が開かれている。	 地球環境と地域行動の実践活動として、市民・企業・行政が協力し、地域環境美化活動が行われている。
分類	花・歴史	花	緑	共働
時期	3 月～4 月	4 月頃	5 月頃	6 月
場所	舞鶴公園内	藤棚	平和台陸上競技場会議室	舞鶴公園内
参加者	約 42 万人	約 1,000 人		

名称	防災キャンプ IN 舞鶴公園	福岡国際マラソン	みどりのまちマルシェ	三ノ丸広場バーベキュー事業
概要	 「野外生活の知識を防災に生かす」、「遊びの中で防災を考える」をテーマとしたイベントで、テントの設営・火おこしなど、野外生活を体験しながら楽しみながら防災を学ぶことができる。	 日本で「マラソンの父」と言われた金栗四三の功績をたたえる金栗賞『朝日マラソン』として 1947 年に第 1 回大会が熊本市で開催されたのが始まり。海外からも多数の選手が出場する世界規模の大会。	 「新鮮」「エコ」「ふれあい」の３つのこだわりと、５つの「ためになる」を目指し、作り手と買い手の交流の場が開かれている。自然栽培・有機栽培の野菜、加工品、果物、米、ハーブ等が出品されている。	 舞鶴公園三ノ丸広場で BBQ を楽しむことができるプログラム。食材を自由に持ち込んで楽しめるプランや、すべて手ぶらで楽しめる食材付きプランなどがある。
分類	集客・歴史	スポーツ	集客	集客
時期	12 月～1 月	毎年 12 月第 1 日曜日	7 月～11 月の 5 日間	3 月～11 月
場所	舞鶴公園本丸	平和台陸上競技場発着	舞鶴公園内	舞鶴公園三ノ丸広場
参加者	不明	不明		

③両公園及び周辺地域でのイベント

表：両公園及び周辺地域での主なイベント

	月	大濠公園	舞鶴公園	両公園周辺	天神地区	博多駅地区
春	3		親子サッカー教室			
		福岡城さくらまつり				
	4		キャンプイベント 食イベント 福岡城藤まつり			
	5	花自動車の展示	博多どんたく港まつり			
		日本庭園新緑の会		護国神社春季大祭		
夏	6	ひまわり苗植付け	ラブアース・クリーンアップ	護国神社大祓式		
	7		キャンプイベント みどりのまちマルシェ		博多祇園山笠	
	8	子供教育将棋教室 しごと体験スクール	みどりのまちマルシェ	護国神社みたま祭り		
秋	9		みどりのまちマルシェ 食イベント		中洲ジャズ アジアフォーカス・福岡国際映画祭 The Creators・福岡アジア文化賞 ミュージックシティ天神	
	10		みどりのまちマルシェ	護国神社秋季大祭		中洲まつり
	11	もみじ会・新風の会 月を見る会 カヌー教室	秋の公園であそぼう みどりのまちマルシェ 平和台リレーマラソン		ふくこいアジア祭り	
冬	12	大濠公園 ウィンターイルミネーション	福岡国際マラソン	護国神社大祓式	クリスマス イルミネーション	クリスマス イルミネーション
	1			護国神社厄除・七草祭		十日恵比須正月大祭
	2	ランニング練習会	福岡城梅まつり	護国神社節分・初午祭		節分祭

：広域なイベント　：主なイベント　：関連イベント

④近年の両公園の取組み状況

セントラルパーク構想策定以降、国による公園や文化財の利活用を重視した方針を受け、両公園では、イベントを始めとする、公園の特性を活かした様々な利活用の推進や体制づくり、機能の充実に取り組んできました。

■四季が感じられる魅力づくり

平成 22 年春から開催される「福岡城さくらまつり」は、福岡の春を代表するイベントとして成長しており、平成 29 年度には過去最高となる 47 万人の来場を記録しました。協賛企業は 31 団体にのぼり、出店者等も毎年増えており、昼間はサクラの下でのバーベキューや、夜間は石垣やお堀沿いのサクラのライトアップを行っています。

夏には民間主催による街中の公園内でのキャンプイベントや、秋には指定管理者主催による、舞鶴公園で採れるどんぐりや落ち葉を使ったイベント、冬には、二ノ丸梅園において、「福岡城梅まつり」が開催されるなど、季節感のあるイベントを行っています。

また、両公園では季節ごとのイベントをパッケージ化して情報発信を行っています。

写真：福岡城さくらまつり

写真：「秋の公園で遊ぼう」イベント

■都市の賑わいづくり

平成 29 年度には「福岡城　城跡の光の祭り」として、福岡城本丸を中心にライトアップとデジタル技術を駆使した冬の夜間イベントを開催し、２ヶ月間で約 12 万８千人が来場するなど、公園の閑散期に賑わいをもたらすとともに、公園使用料や駐車場の収入増加につながりました。

また、大濠公園では、中の島のライトアップをはじめ、指定管理者主催による冬のライトアップ演出「ウィンターイルミネーション」を行っています。

写真：福岡城　チームラボ　城跡の光の祭

写真：大濠公園ウィンターイルミネーション

■歴史文化を体験できる魅力づくり

園内の歴史文化を体験できるプログラムとして、平成 29 年度に修復工事が完了した重要文化財「多聞櫓」を活用したワークショップや、大濠公園の日本庭園における呈茶サービス、三の丸スクエア（旧舞鶴中学校校舎）内に平成 30 年 3 月にオープンした「きもの体験施設」による、着物着用による園内散策の推進などを行っています。

また、鴻臚館跡展示館前広場が国際会議のレセプションの会場として利用されるなど、国内外の人々が「福岡で最古の国際交流の場」に訪れています。

写真：多聞櫓の活用

写真：日本庭園呈茶サービス

写真：ユニークベニューとしての活用

写真：着物体験サービス

（５）事業費の推移等

①公園整備に関する費用

ア）大濠公園

大濠公園では、近年新たな施設整備は行われておらず、既存施設の修繕工事が行われています。平成 29 年度は約 1 億 5 千万円と突出していますが、それ以前は、多い年度では約 9300 万円、少ない年では約 4800 万円となっています。

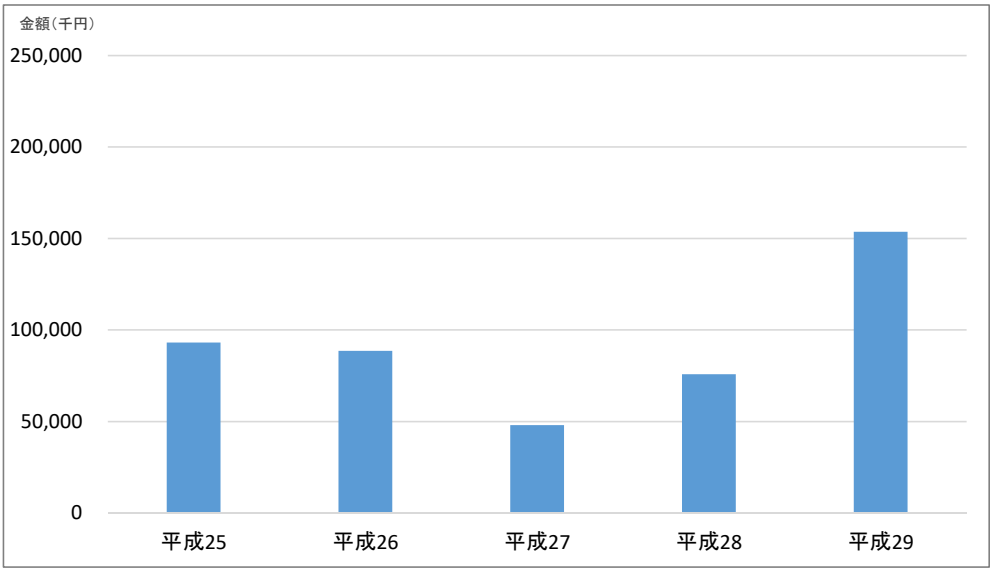


図　大濠公園の整備に関する費用

イ）舞鶴公園

舞鶴公園の整備費用は大濠公園に比べて高額で推移しています。平成 25 年には平和台陸上競技場の大規模な修繕が行われており、他の年に比べて工事費が突出しています。平成 26 年度以降はほぼ横ばいであり、約 3500 万円となっています。

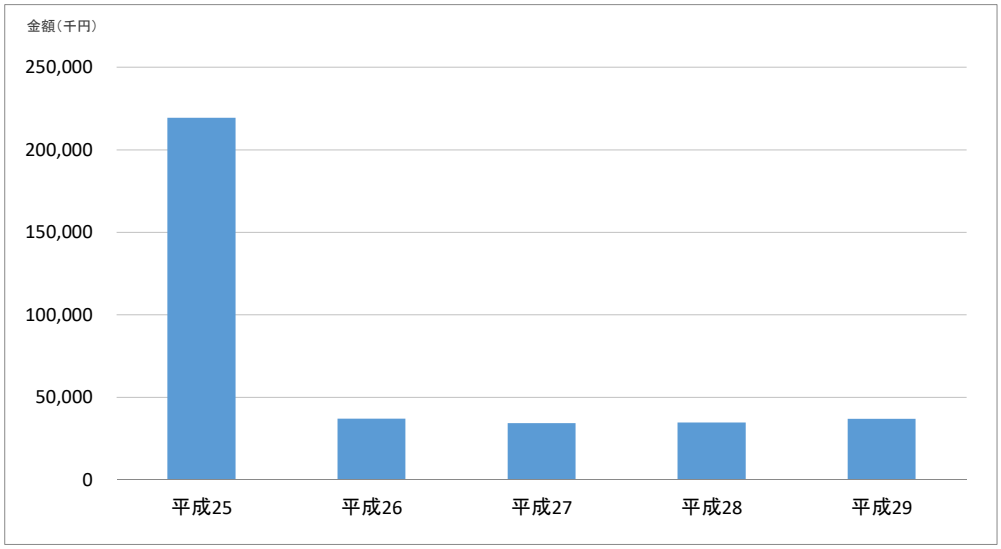


図　舞鶴公園の整備に関する費用

②公園管理に関する費用

ア）大濠公園

近年の指定管理料及びその内訳の推移は以下の通りです。

平成 25 年度から平成 29 年度まで、民間企業のにしてつグループ公園管理団体による管理が行われています。管理費用は大きな変化は見られず、約 1 億 7 千万円ほどとなっています。

管理費用の中では、ベンチや遊具、園路の舗装などにかかる修繕費の割合が舞鶴公園に比べ大きくなっています。

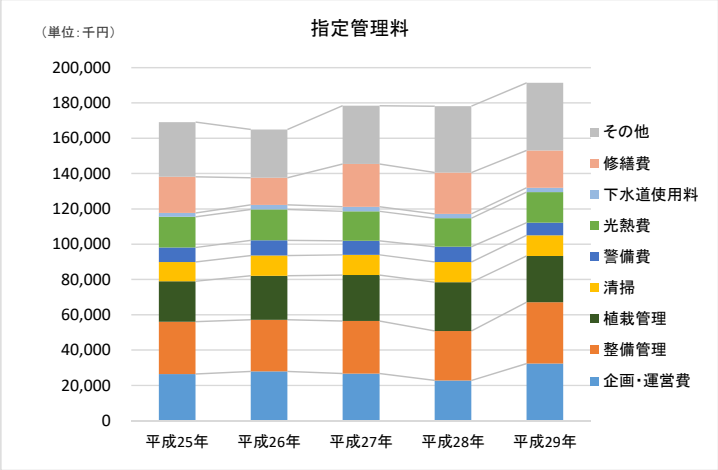


図　大濠公園指定管理料の推移と内訳

イ）舞鶴公園

近年の指定管理料及びその内訳の推移は以下の通りです。なお、管理費用の内訳には企画・運営費は含まれていません。

舞鶴公園の管理費用は、大濠公園と比べやや少なく、平成 29 年度は約 1 億 3 千万円、それ以前は約 1 億円となっています。

舞鶴公園は、大濠公園よりも緑地面積が大きいこともあり、植栽管理費、清掃費の割合が大濠公園の約２倍となっています。その他、両公園で修繕費の割合が大きく異なりますが、整備管理や警備、光熱費などの割合に大きな差は見られません。

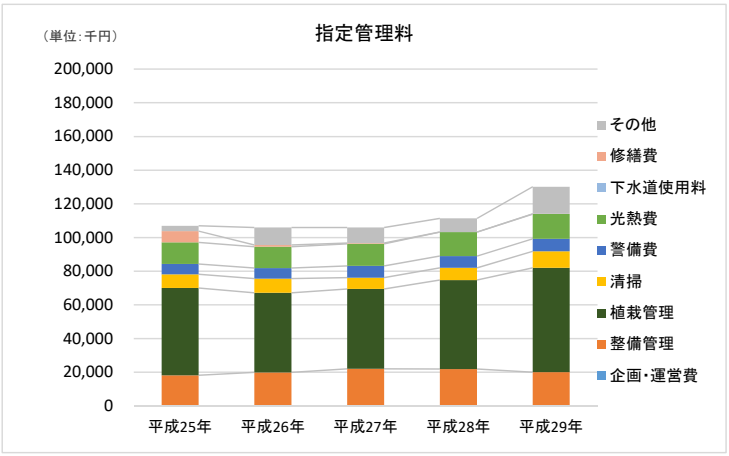


図　舞鶴公園指定管理料の推移と内訳

③使用料収入等

現在大濠公園と舞鶴公園で実施されている収益事業は大きく「公園内行為（公園使用料）」「施設設置料」「占用料」「施設使用料」の４種類に分けることができます。ここでは両公園で実施されている収益事業を整理します。

■公園使用料

ア）大濠公園

過去５年間の中で、最も収入が多い年で平成 28 年度の約 170 万円、少ない年で平成 25 年度の約 100 万円となっています。中でも、「業として写真を撮影するもの」の割合が収入の多くを占めています。次に、「業として映画を撮影するもの」も毎年一定の収入があります。

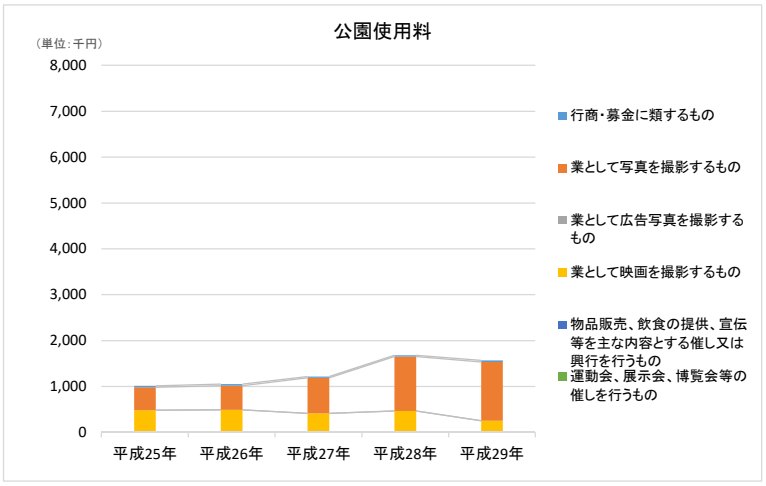


図　大濠公園の公園使用料

イ）舞鶴公園

平成 29 年度は、冬の間の閑散期のイベントとしてチームラボ光の祭典における夜間の利用が行われたため、公園使用料が突出し、約 700 万円となっています。その大部分は「物品販売、飲食の提供、宣伝等を主な内容とする催し又は興行を行うもの」が占めています。平成 25 年～28 年度は約 80 万円から 100 万となっており、「業として写真を撮影するもの」については、大濠公園と比べ少ない割合となっています。

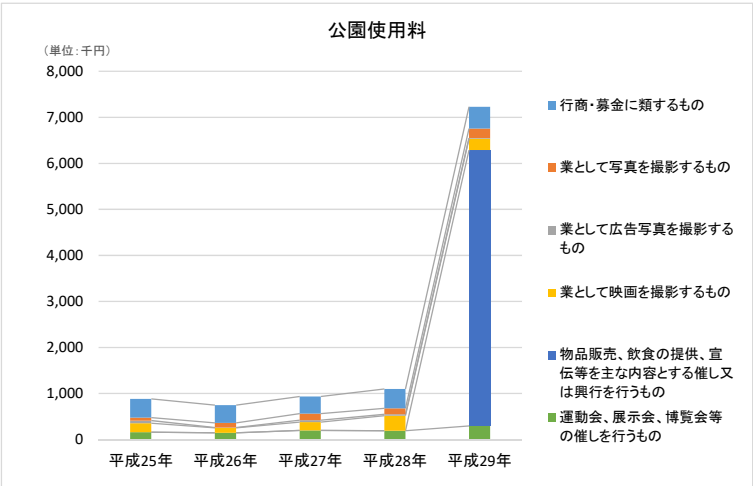


図　舞鶴公園の公園使用料

■施設設置料

ア）大濠公園

平成 26 年が突出し、約 400 万円となっています。平成 27 年以降は約 200 万円です。

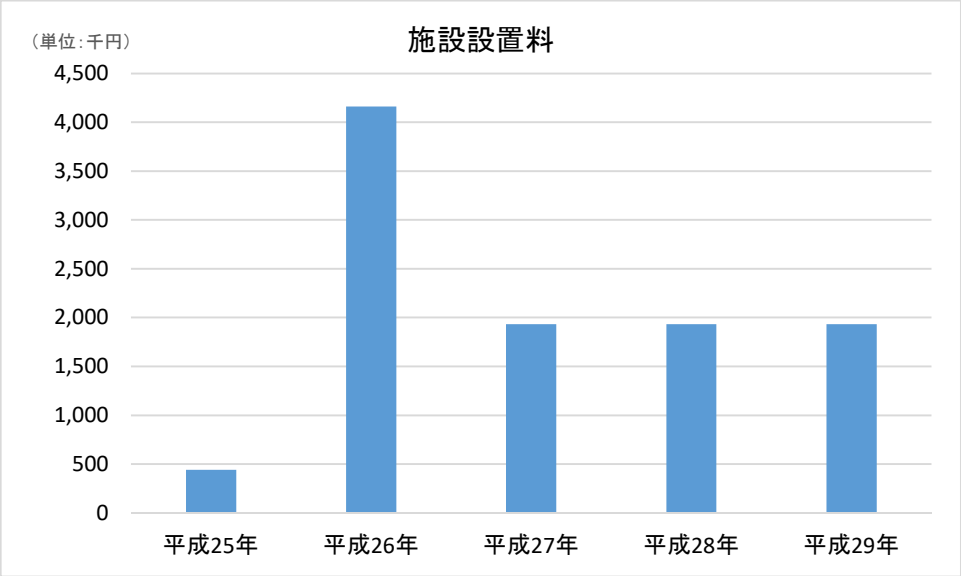


図　大濠公園の施設設置料

イ）舞鶴公園

過去５年間でほぼ同じであり、約 13 万円となっています。

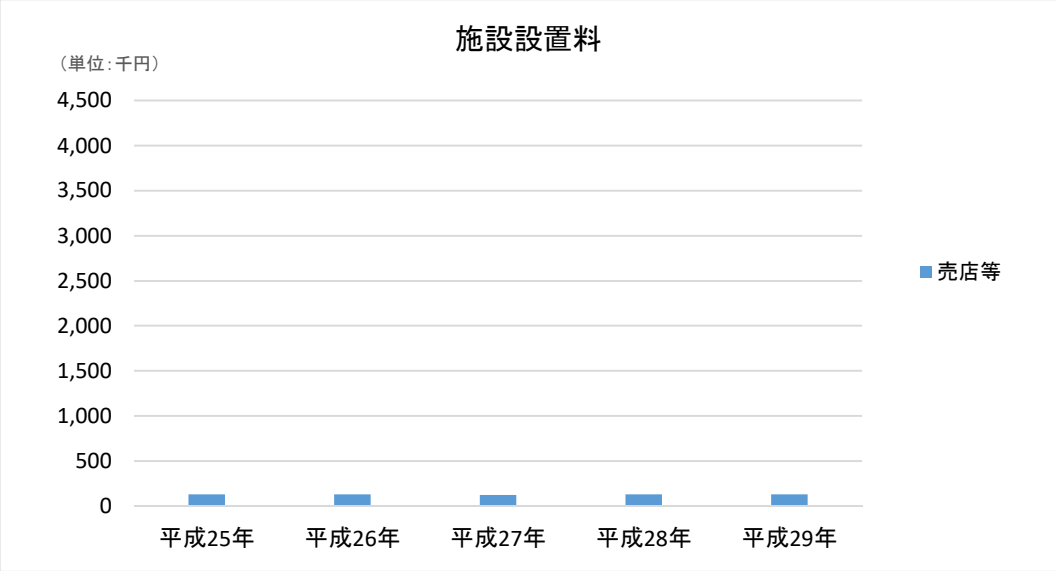


図　舞鶴公園の施設設置料

■公園占用料

ア）大濠公園

過去５年間で大きな変化はなく、多い年で約 80 万円、少ない年で約 50 万円となっています。大きく、「競技会のための仮設工作物」と「電柱・支柱等」が占めています。

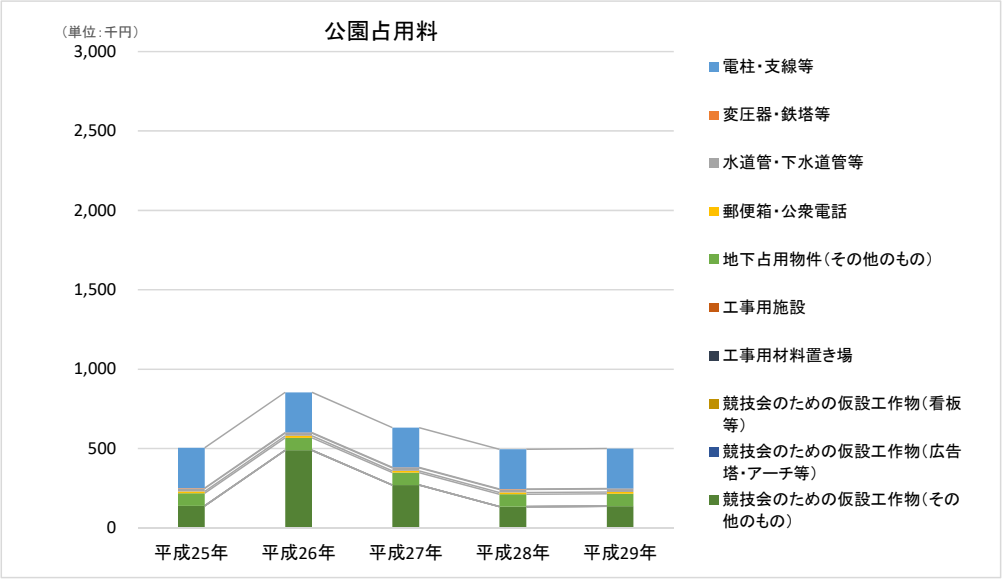


図　大濠公園の公園占用料

イ）舞鶴公園

過去５年間で大きな変化はなく、多い年で約 300 万円、少ない年で約 200 万円となっています。大部分を「競技会のための仮設工作物」が占めています。

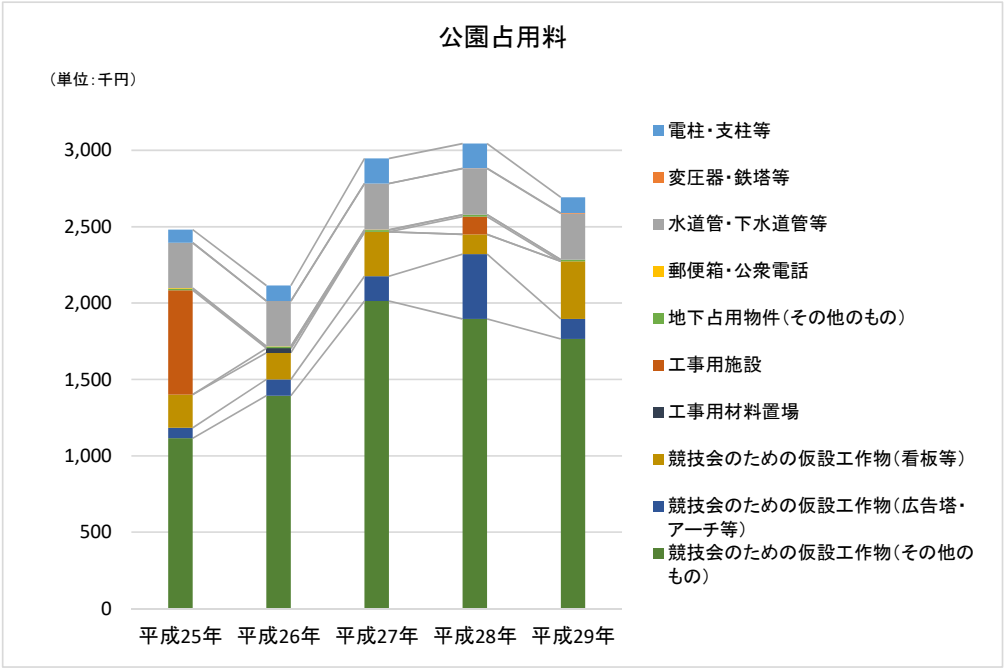


図　舞鶴公園の公園占用料

■施設使用料

ア）大濠公園

大濠公園の施設使用料は年々伸びており、平成 29 年度は約 6800 万円となっています。特に、駐車場の割合が多く、全体の約 8 割を占めています。

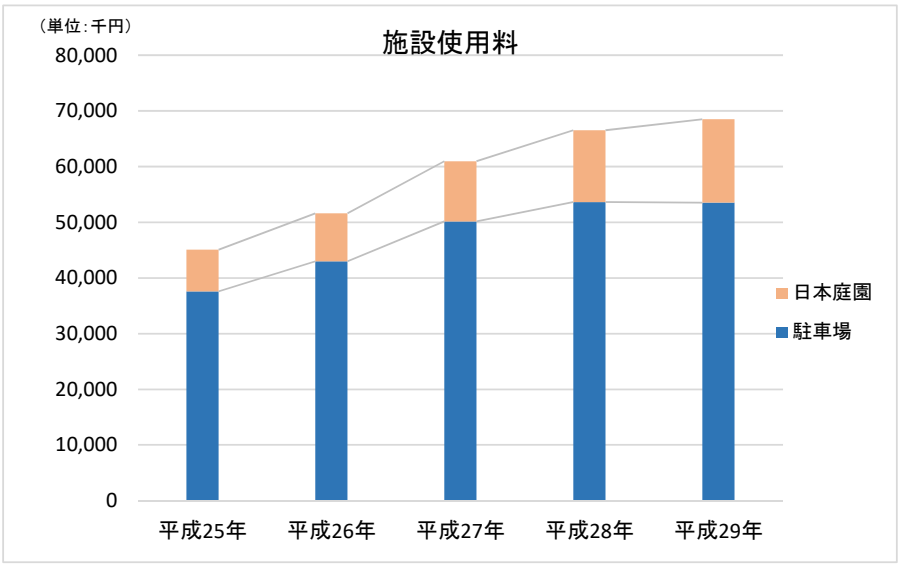


図　大濠公園の施設使用料

イ）舞鶴公園

過去５年間で大きな変化はなく、多い年で約 3500 万円、少ない年で約 2500 万円となっています。大きな舞鶴公園も大濠公園と同様に、駐車場の収入が全体の多くを占めています。残りは陸上競技場などのスポーツ施設の収入となっています。

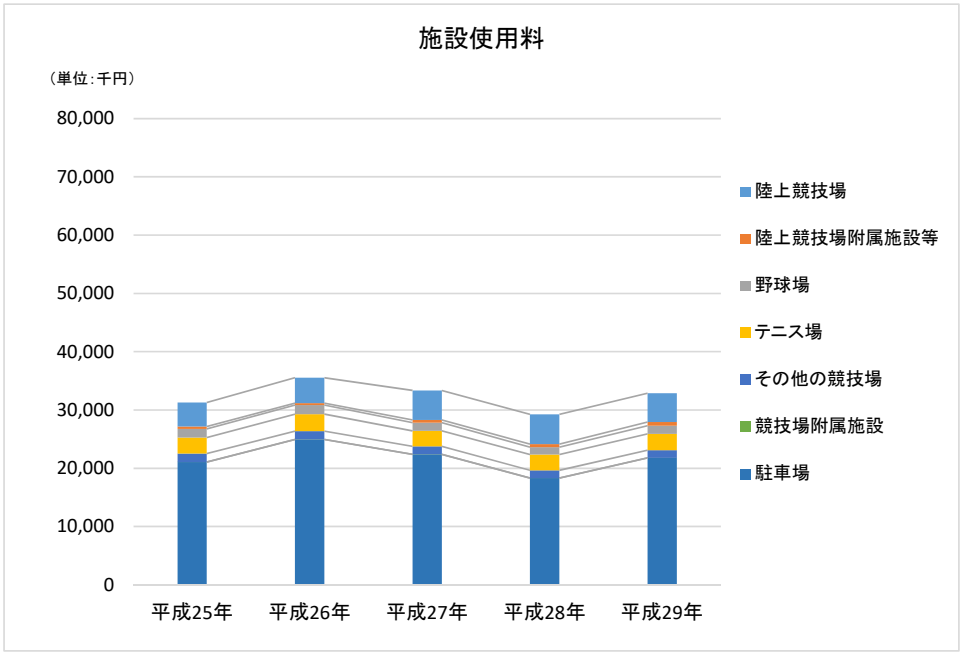


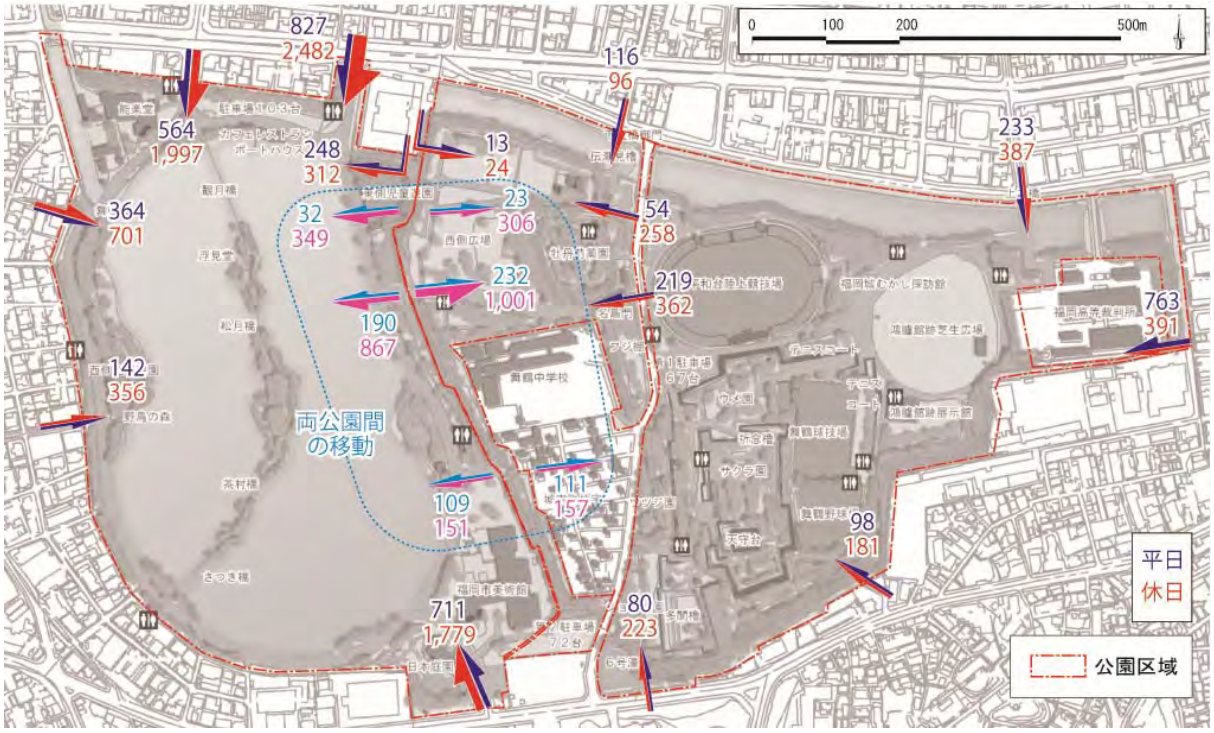
図　舞鶴公園の施設使用料

２－６．利用状況

（１）利用実態

①来園状況（歩行者）

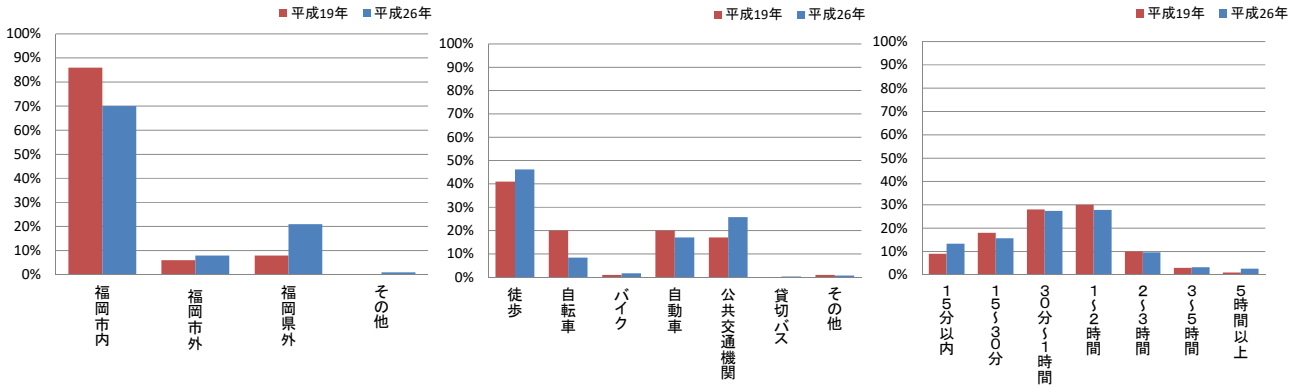
歩行者は、公園北側にある明治通りから大濠公園への来園者数が最も多く、次いで公園南側にある国体道路から大濠公園への来園者が多くなっています。また、大濠公園と舞鶴公園間の移動をみると、休日には約 1,300 人～1,400 人が行き来していることがわかります。



図：歩行者の来園状況（出典：平成 25 年度交通量調査）

②来園者の利用実態

平成 19 年と平成 26 年に行われた都市公園の利用実態調査結果を比較すると、近隣だけでなく市外や県外からの利用者数が増えており、公共交通機関で訪れる利用者が増えています。利用者の滞在時間においては、大きな変化は見られず、30 分から２時間の滞在が 60%を占めています。



図：利用実態（出典：都市公園利用実態調査）

※対象は舞鶴公園のみ。アンケート回答数は、平成 19 年 381 人、平成 26 年 299 人

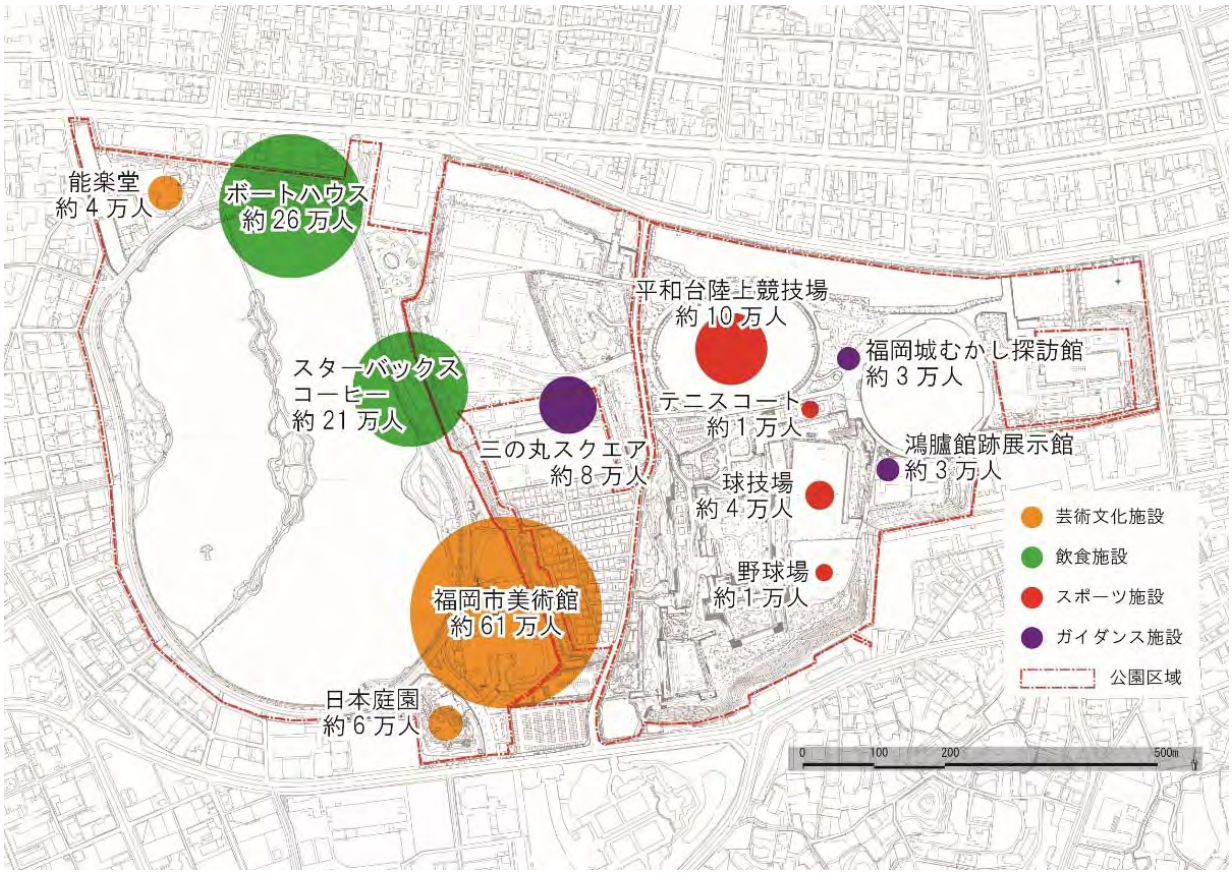
（２）施設利用状況

大濠公園と舞鶴公園の一般利用者を含めた利用者の総数は計測されていないため、ここでは利用者を把握している主要施設の利用状況について整理します。

①両公園の施設利用状況

両公園の主要施設の平成 29 年度の年間利用者数を比較すると、主要施設の数は大濠公園のほうが少ないものの、利用者数は飲食施設を有する大濠公園の方が多い状況です。

福岡市美術館の利用者数は、リニューアル工事に伴う休館前の平成 27 年度は約 61 万人と両公園全体で突出しています。次に、ボートハウスの利用者数が最も多く、スターバックスコーヒー、平和台陸上競技場、三の丸スクエア、日本庭園が続き、その他の施設は１～４万人程度の利用者数となっています。



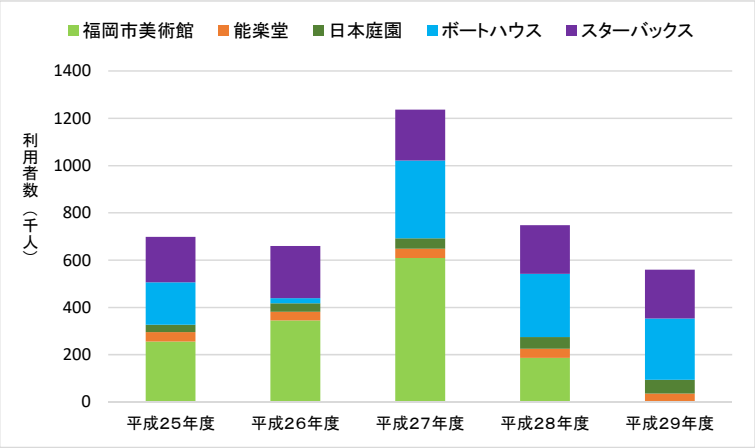
図：主要施設の年間利用者数（平成 29 年度）

※福岡市美術館のみ平成 27 年度のデータを使用

②年度毎の施設利用状況

ア）大濠公園

大濠公園内の主要施設には、芸術文化施設が３つ、飲食施設が２つあります。芸術文化施設ごとの利用者数では、平成 27 年度までは福岡市美術館が最も多く、能楽堂や日本庭園は、約３～４万人の利用者数となっています。また、飲食施設は休憩できる空間として多くの方に利用されています。



※福岡市美術館は、収蔵庫整備工事のため平成 25 年 7 月から 9 月まで休館。またリニューアル工事のため平成 28 年 9 月から平成 31 年 3 月まで休館。

※ボートハウスのレストランと売店は、平成 25 年 5 月から平成 27 年 1 月まで閉店

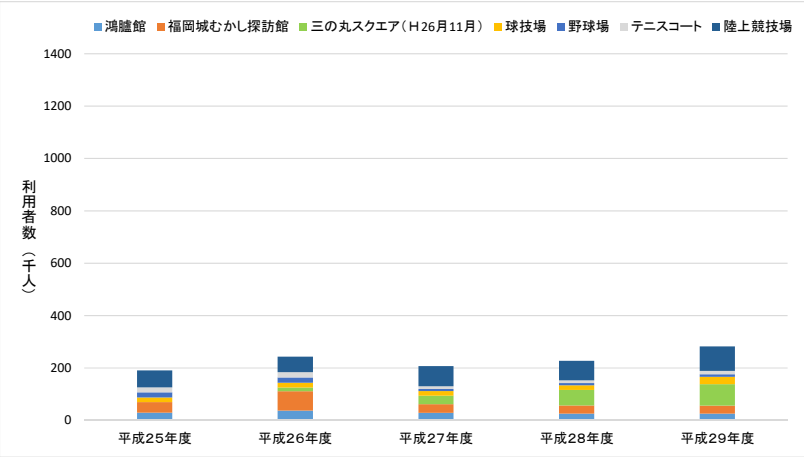
図：大濠公園の主要施設の年度ごとの利用状況

イ）舞鶴公園

舞鶴公園には運動施設が４つあり、舞鶴公園の主要施設の中でも平和台陸上競技場の利用者数が最も多くなっています。

また、鴻臚館跡展示館や福岡城むかし探訪館、三の丸スクエアといった福岡城跡及び鴻臚館跡のガイダンスを行う施設も整備されています。

主要施設の利用者数の合計は、平成 29 年度が最も多い約 28 万人ですが、大濠公園と比較すると利用者数は約２分の１程度となっています。



※平和台陸上競技場及び球技場は観客を含む

※三の丸スクエアは平成 26 年 11 月 1 日にオープン

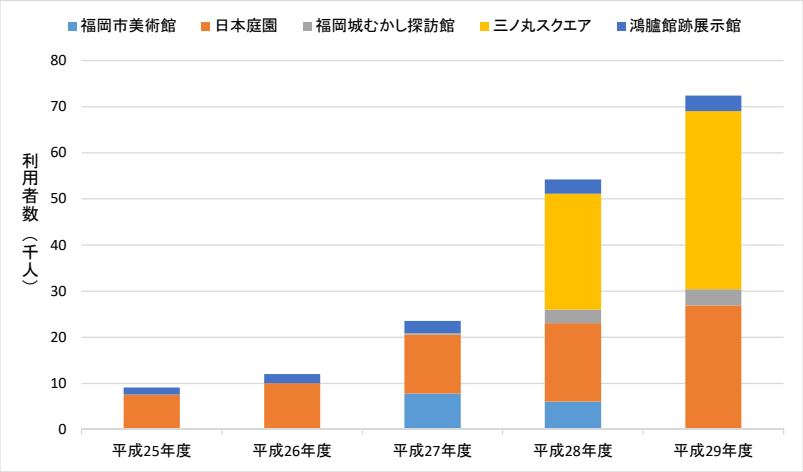
図：舞鶴公園の主要施設の年度ごとの利用状況

ウ）両公園の外国人施設利用者数

両公園における外国人利用者数については、福岡市美術館、日本庭園、日本庭園、福岡城むかし探訪館、三ノ丸スクエア、鴻臚館跡展示館の５つの施設で計測されています。

このうち､外国人施設利用者数が最も多い年は平成29年度の約７万２千人となっています。なかでも三ノ丸スクエアは平成28年３月の集計開始以降､５施設で外国人利用者が最も多く、平成 29 年度は約３万９千人であり、次いで日本庭園が約２万７千人となっています。

三ノ丸スクエアや日本庭園と比較すると、福岡城むかし探訪館と鴻臚館跡展示館の外国人利用者は平成 28 年度、平成 29 年度ともにそれぞれ約３千人と全体の中で少ない割合にとどまっており、年度ごとの伸びもそれほど見られません。



図：公園内施設の外国人利用者数

※福岡市美術館は平成 27 年度から集計開始。平成 28 年 9 月から平成 30 年 3 月までリニューアル工事。

※日本庭園はウェルカムカード（訪日外国人向け割引カード）利用者数から算出。

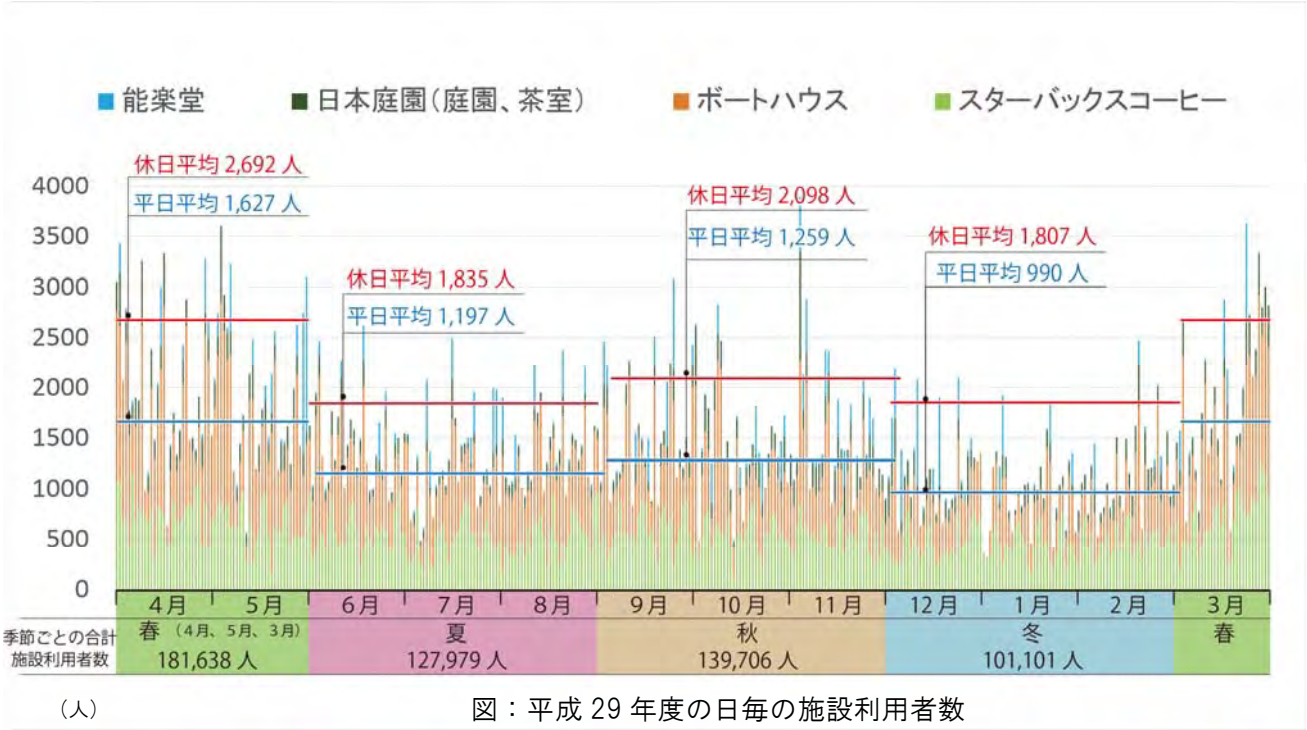
※三の丸スクエアは平成 26 年 11 月 1 日にオープン。外国人利用者数は平成 28 年 3 月から集計開始。

※福岡城むかし探訪館の外国人利用者数は平成 28 年 3 月から集計開始。

③平成 29 年度の施設利用状況

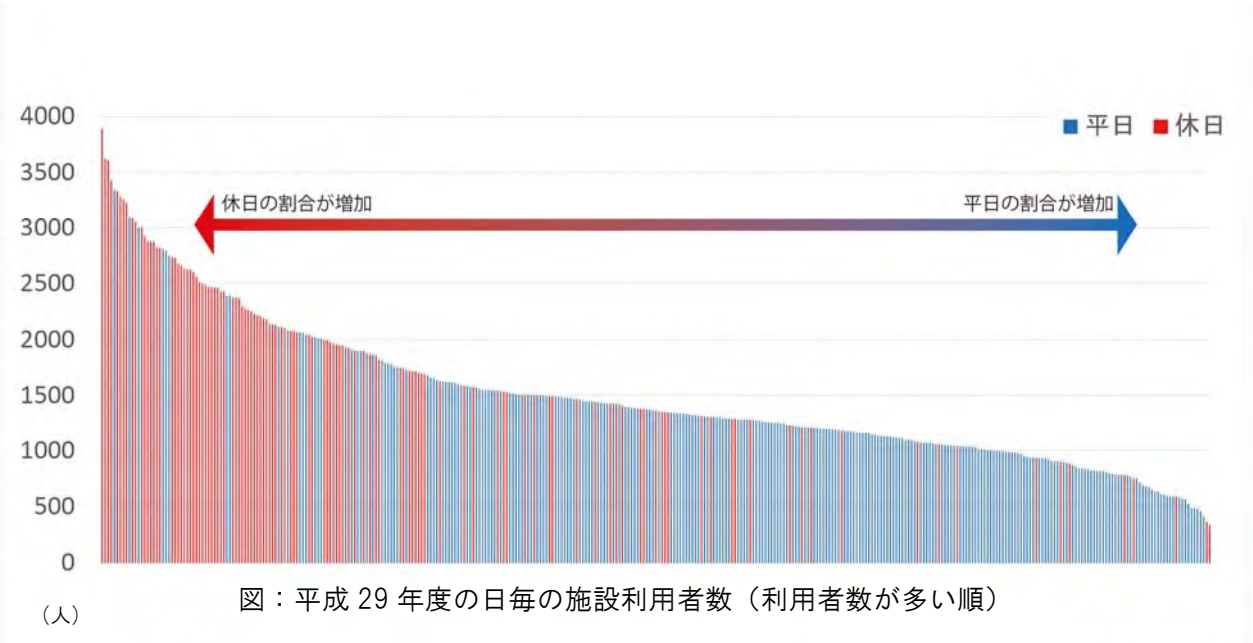
ア）大濠公園

平成 29 年度の大濠公園内の施設利用者数は合計で 56 万人程度となっています。四季の中で春季の施設利用者数が最も多く、冬季が最も少ない状況です。



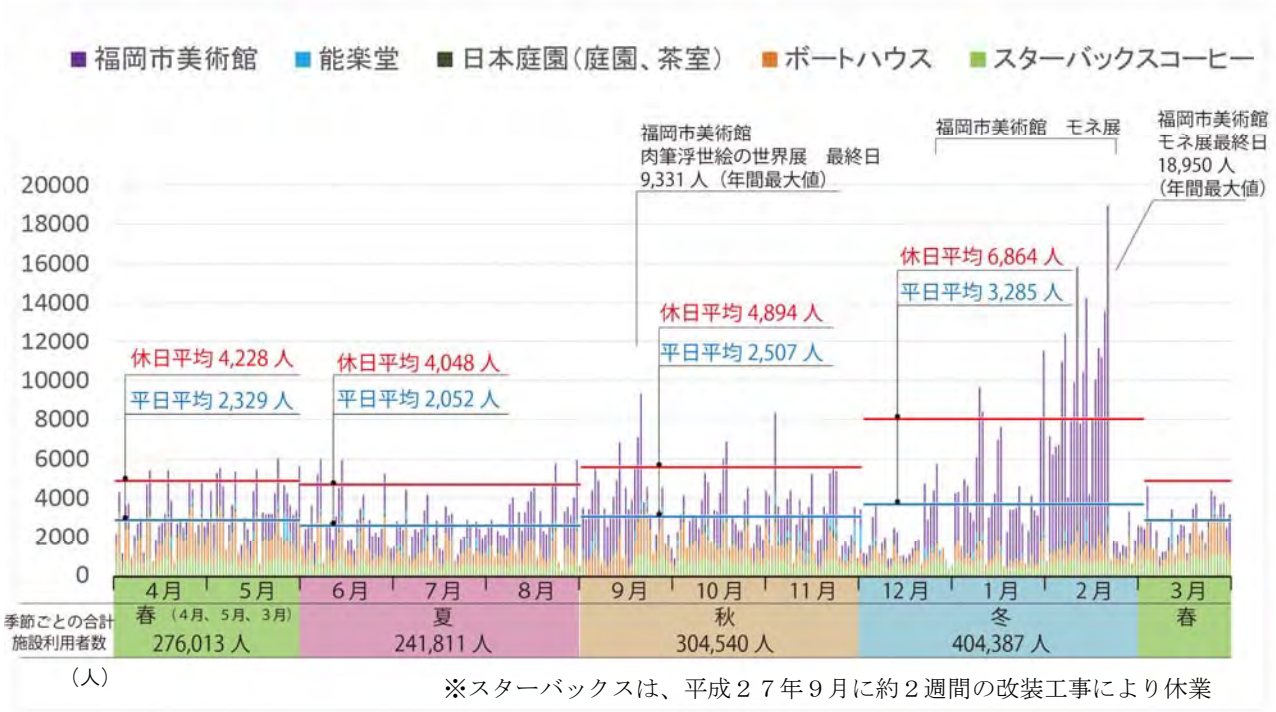
図：平成 29 年度の日毎の施設利用者数

下図のように、平成 29 年度の大濠公園の各施設利用者数を日ごとに多い順から並べると、利用者数が多くなるほど休日の割合が高くなり、少なくなるほど平日の割合が高くなることがわかります。



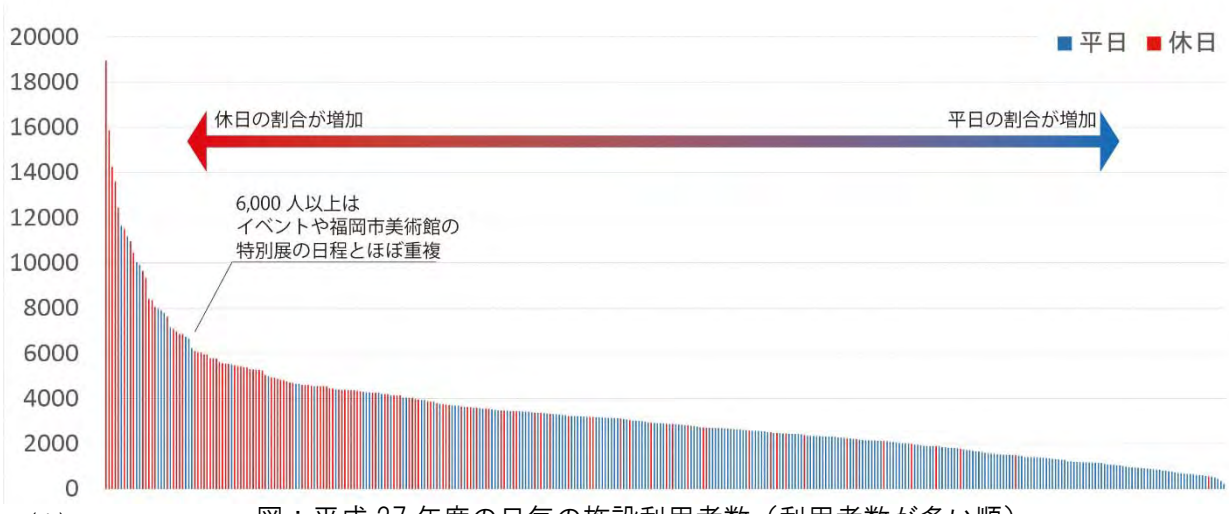
図：平成 29 年度の日毎の施設利用者数（利用者数が多い順）

参考に、福岡市美術館が通年で開館していた平成 27 年度の大濠公園内の施設利用者数は合計で 120 万人程度となっており、福岡市美術館で開催されている人気の高い特別展の開催期間中には特に、施設利用者が多い傾向が見られます。



図：平成 27 年度の日毎の施設利用者数

平成 27 年度の大濠公園の各施設利用者数を日ごとに多い順から並べると、施設利用者数が 6,000 人以上となる日は福岡市美術館の特別展の日程とほぼ重複しています。

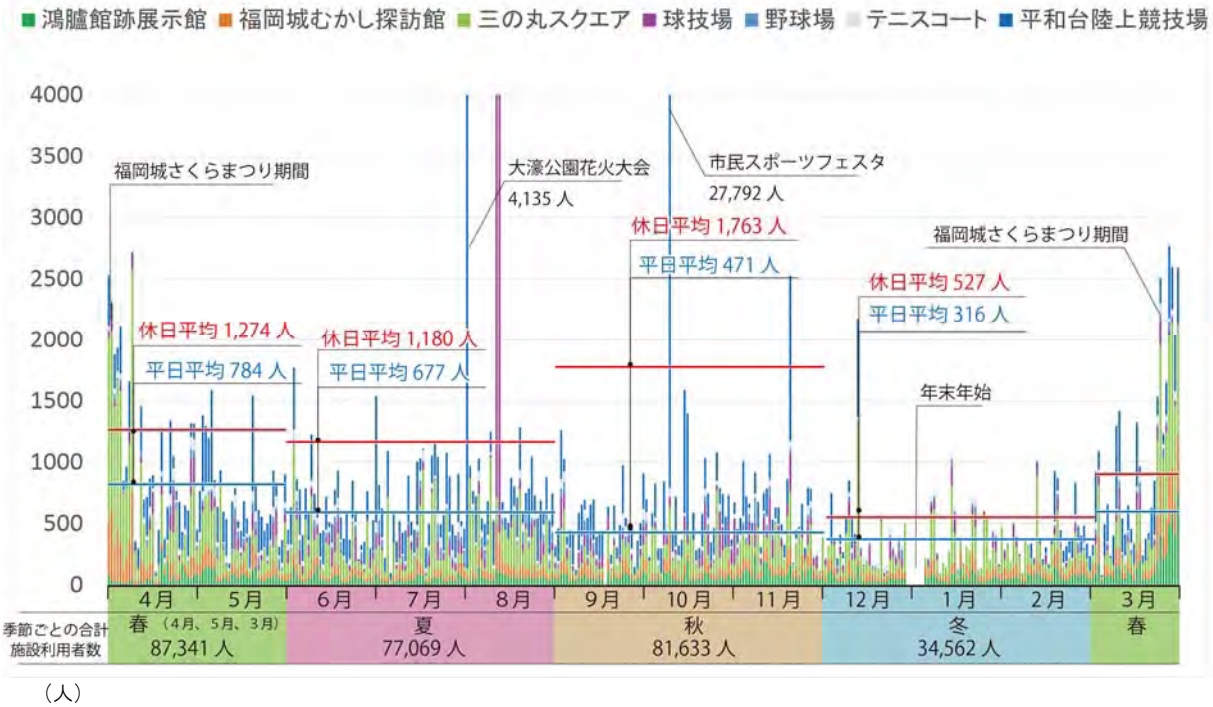


図：平成 27 年度の日毎の施設利用者数（利用者数が多い順）

イ）舞鶴公園

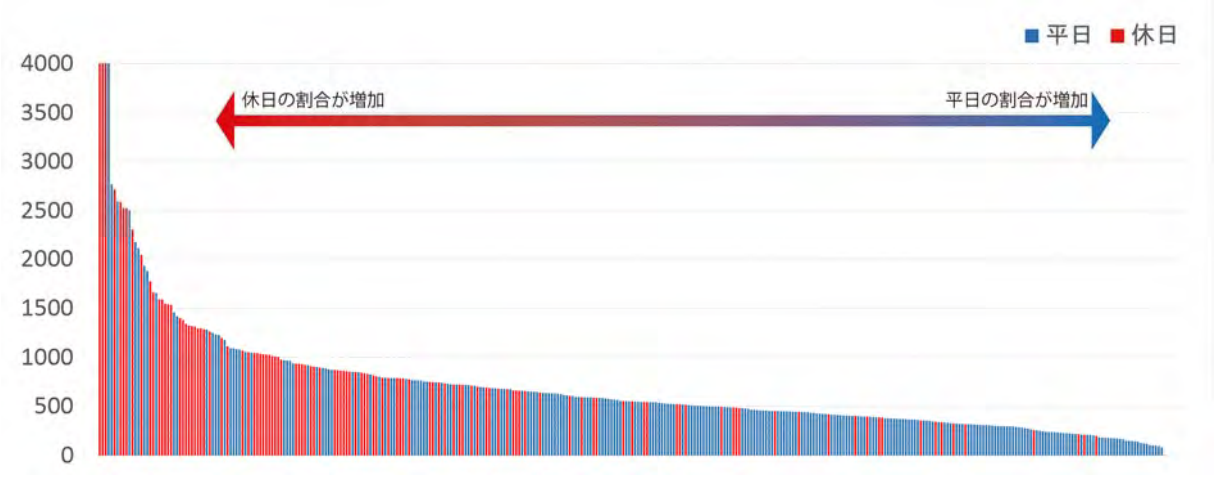
平成 29 年度の舞鶴公園内の施設利用者数は合計で 28 万人程度となっています。利用者数は福岡城さくらまつりが開催されている期間に集中しており、平和台陸上競技場で市民スポーツフェスタが開催された日が、年間での最大値となっています。

季節ごとに利用者数を見てみると、冬季が最も少なく、最も多い春季の半分以下となっています。



図：平成 29 年度の日毎の施設利用者数

下図のように、平成 29 年度の舞鶴公園の各施設利用者数を日ごとに多い順から並べると、大濠公園と同様の傾向が見られ、利用者数が多くなるほど休日の割合が高くなり、少なくなるほど平日の割合が高くなっています。年間を通して、冬季の平日の利用者が最も少ない傾向にあると言えます。

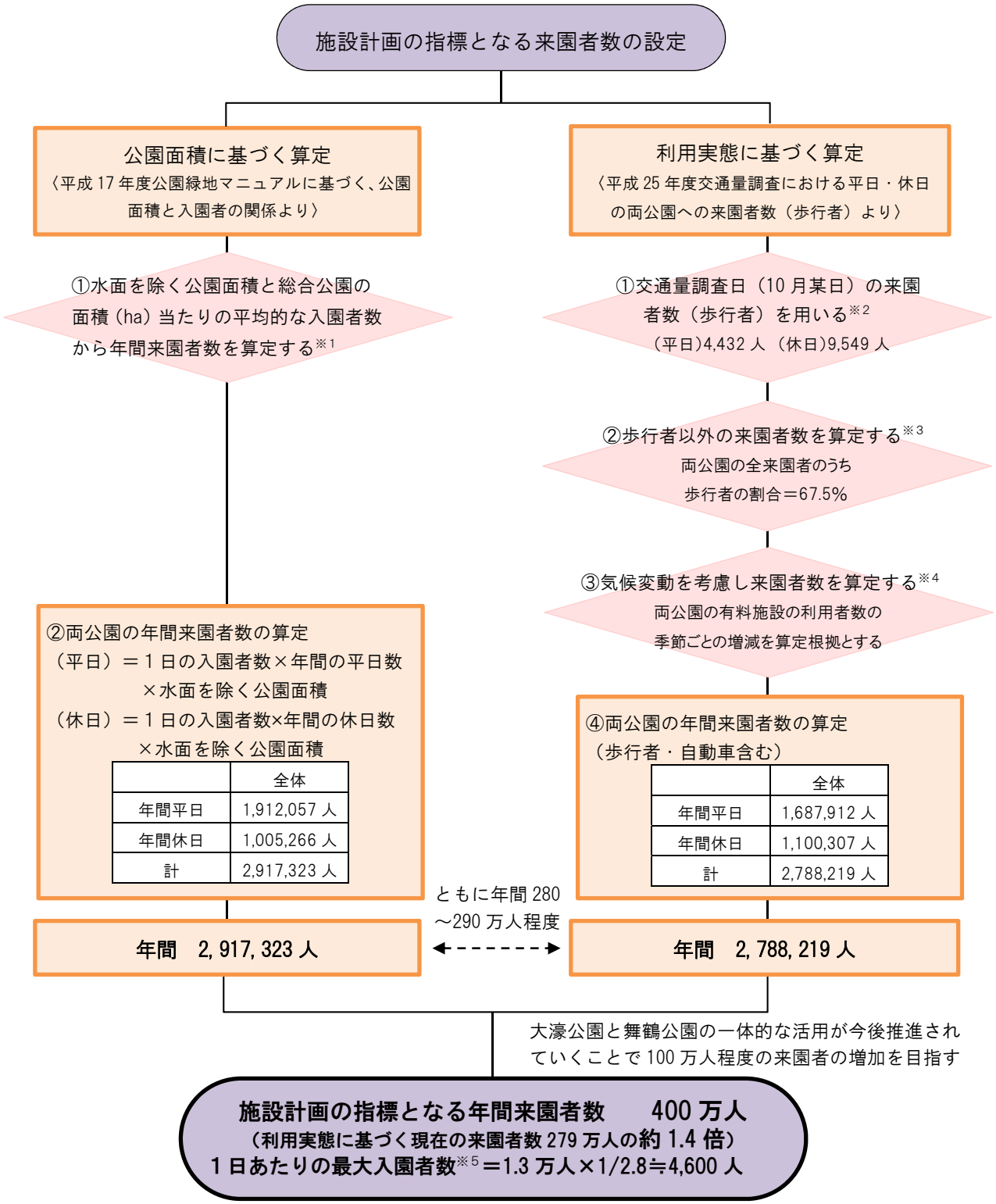


図：平成 29 年度の日毎の施設利用者数（利用者数が多い順）

２－７．来園者数の設定

公園利用者の規模やニーズに応じた公園施設を計画するにあたって、公園面積に基づく計算と、利用実態に基づく計算の二通りで来園者数の算定を行ったうえで、来園者数を設定します。

なお、現状では公園内の無料で利用できる施設の利用者数については把握できていない状況です。今後、利用者数の把握と合わせて目標値を検討していきます。



【補足】

1．公園面積に基づく算定について

【※1．公園面積及び平均的な入園者数の設定について】

・総合公園の面積（ha）当たりの平均的な入園者数は、平日 119.9 人/ha・日、休日 158.2 人/ha・日とされています。

・水面を除く公園面積は以下の通り。

・舞鶴公園：（全面積）－（水面の面積）＝43.8ha
・大濠公園：（全面積）－（水面の面積）＝17.3ha

2．利用実態に基づく算定について

【※2．交通量調査日の来園者数の算出について】

・大濠公園・舞鶴公園の来園者数の算出方法については以下の表の通り。

表：一日当たりの来園者数（歩行者）

	大濠公園 (A)	舞鶴公園 (B)	両公園間の移動者数(C)	全体 (D)	備考
平日	3,187 人	1,942 人	697 人	**4,432 人**	(D)＝(A)＋(B)－(C)
休日	8,194 人	3,386 人	2,831 人	**9,549 人**	

【※3．歩行者以外の来園者数の算出について】

都市公園利用実態調査における舞鶴公園利用者の交通手段の割合から、徒歩以外の利用者を算出します。

●算出方法

・大濠公園も舞鶴公園の交通手段の割合と同様とみなす
・徒歩、バイク、公共交通機関は歩行者とし、それ以外を自転車、自家用車、貸切バス等のその他の利用者とする
・平成 19 年と平成 26 年の平均値を採用する
・1 年間の平日を 261 日、休日を 104 日とみなす。
歩行者の割合 ＝ 徒歩＋バイク＋公共交通機関 ＝ {(41+1+17)%+(48+2+26)%} /2 ＝67.5%

【※4．気候変動による来園者数の算出について】

平成 27 年の大濠公園の有料施設の利用者数をもとに季節変動を考慮し、年間来園者数を算出します。

●算出方法

・両公園の有料施設の利用者数の季節ごとの増減と、両公園全体の来園者の増減が同様とみなす。
・下記の計算式より年間休日及び平日の来園者数を算出する。

（X 年間休日（又は平日）の両公園全体の来園者数）：（交通調査日(10 月某日)の両公園全体の来園者数）＝（年間休日（又は平日）の施設利用者数）：（交通調査日(10 月某日)の施設利用者数）

※誤差を少なくするため、10 月の休日（又は平日）のうち 4 日間の平均を算出

3．施設計画の指標とする来園者数の設定について

【※5．1 日あたりの最大入園者数について】

1 日あたりの最大入園者数については、休日の平均来園者数に回転率（1/2.8）を乗じて算出します。なお、休日の平均入園者数は、年間の来園者数 400 万人をもとに、公園緑地マニュアルでの平日・休日の来園者の割合を考慮し、1.3 万人/日とします。

〈参考：来園者数の他事例〉

公園名	公園面積	年間来園者数
熊本城	52.3ha	（有料区域）178 万人
金沢城公園	24.3ha	238 万人
大阪城	105.6ha	（有料区域）234 万人
首里城	17.8ha	267 万人
海の中道海浜公園	293.5ha	221 万人
国営昭和記念公園	162.5ha	350 万人
NY セントラルパーク	341ha	2,500 万人

※原則、各公園の管理部門より回答のあった平成 27 年度の来園者数を記載。国営昭和記念公園と NY セントラルパークについては、インターネットの情報をもとに作成。

3．利用者の意見

（1）パブリック・コメント

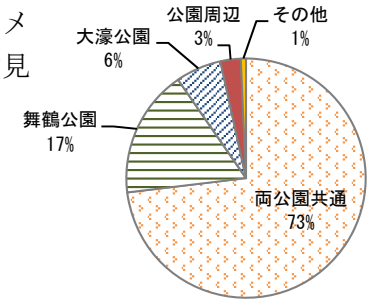
セントラルパーク構想の策定段階で実施したパブリック・コメントでは、県民・市民から様々な意見が得られました。その意見のうち、具体的な整備方針に関する意見を整理します。

・意見募集期間

：平成 26 年 1 月 6 日～平成 26 年 2 月 4 日（30 日間）

・意見提出者数（件数）

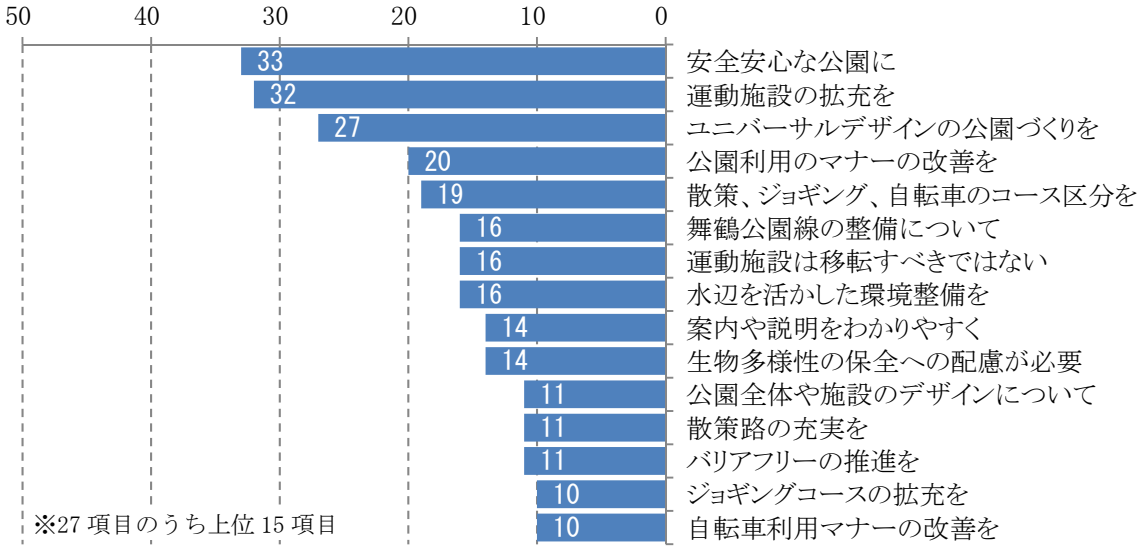
：614 名（1,342 件）



図：意見の対象別割合

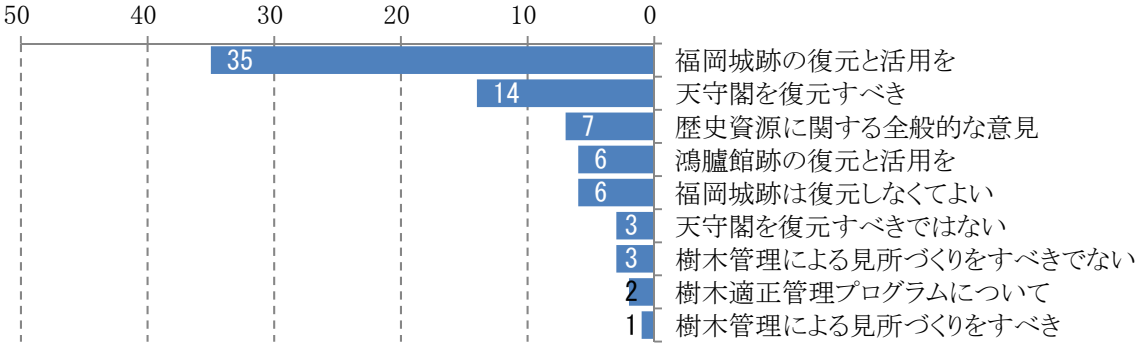
①空間をつなぐ方針に係る意見（計 320 件）

空間をつなぐ方針に係る意見は４つの方針の中で２番目に多く、その中でも安全で利用しやすい公園についての意見が多くみられました。



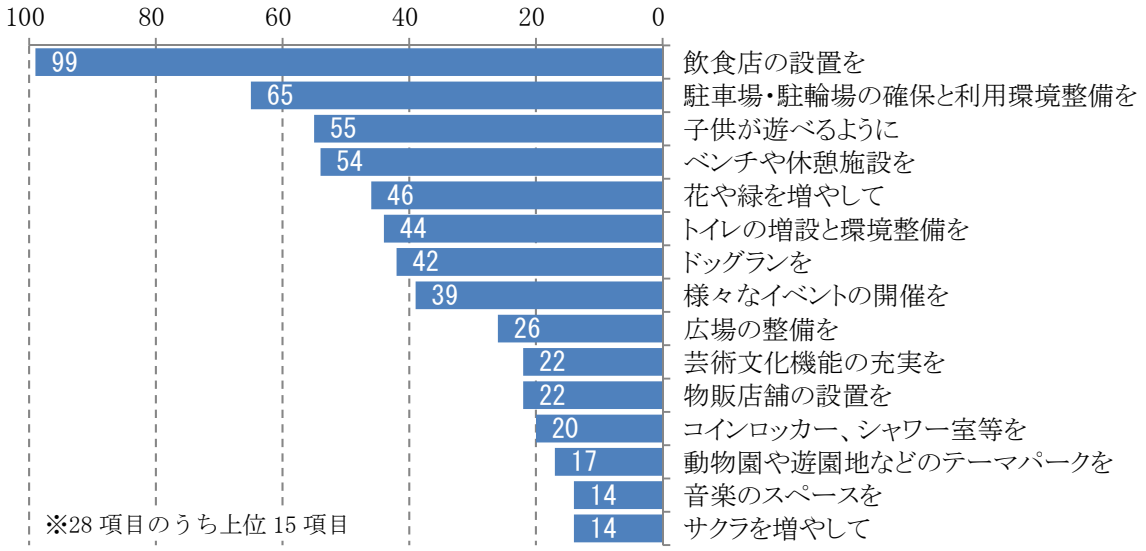
②時をたどる方針に係る意見（計 77 件）

時をたどる方針に係る意見は、福岡城の復元や活用に関する内容が多くみられました。その他にも鴻臚館の復元や活用に関する意見や、歴史を活かした見所づくりに係る樹木の取り扱いに関する意見も見られます。



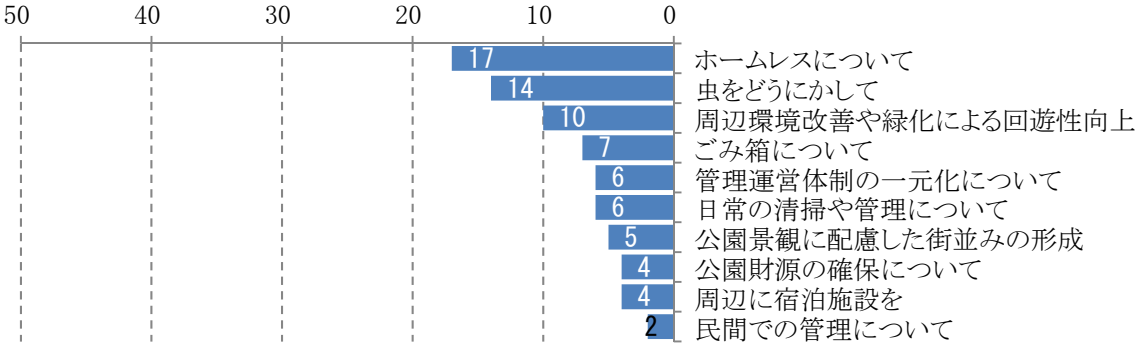
③にぎわいをつくる方針に係る意見（計 655 件）

にぎわいをつくる方針に係る意見は４つの方針の中で最も意見が多く、半数以上を占めています。その中でも飲食店を望む意見が特に多く、駐車施設や休養施設、遊戯施設等とあわせて、諸施設の充実に係る意見が目立っています。



④みんなで育てる方針に係る意見（計 75 件）

みんなで育てる方針に係る意見では、大濠公園と舞鶴公園の安全性や快適性に関する内容が多くみられます。また、両公園の区域内に係らず、区域外に波及する意見も見られます。



（２）市政アンケート調査

福岡市では、本市の施策や事業の推進の参考とするとともに、市民の市政への関心や理解を深めることを目的に、平成 19 年度から年間６回程度の市政アンケート調査を実施しています。

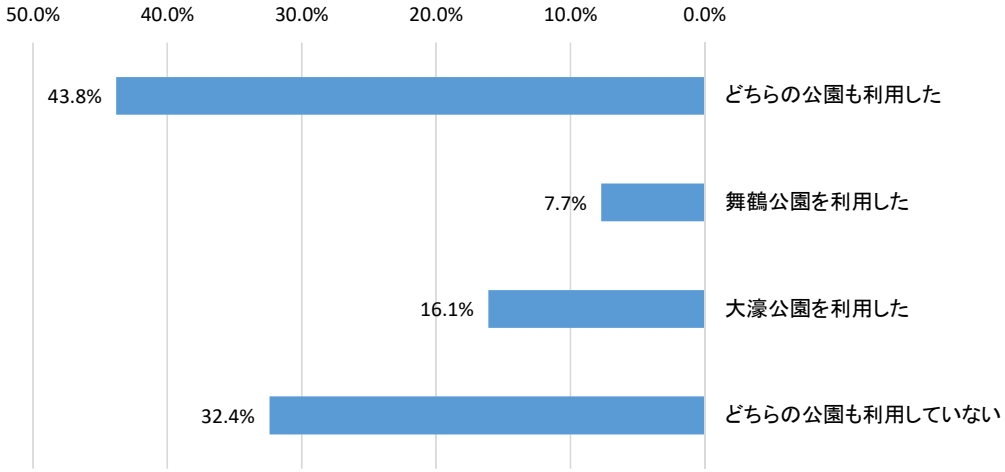
平成 30 年度第２回市政アンケート調査では、「舞鶴公園・大濠公園の利用のしかた」についての調査を行いました。その結果を以下に整理します。

・調査期間：平成 30 年６月 25 日～７月９日（15 日間）

・調査数　：627 件　　・回答数　：571 件　　・有効回答率：91.1％

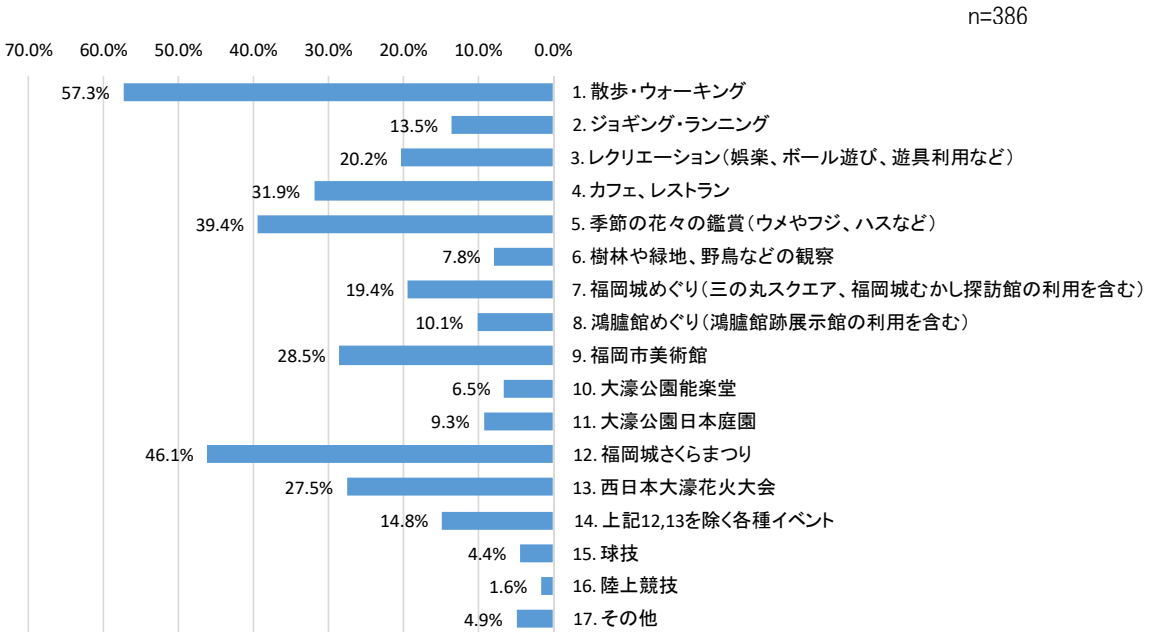
①過去 3 年間での舞鶴公園・大濠公園の利用状況に係る意見

どちらの公園も利用したことがあるという回答が半数近くある一方で、どちらの公園も利用していないという回答が 2 番目に挙げられています。



②舞鶴公園・大濠公園の利用目的に係る意見

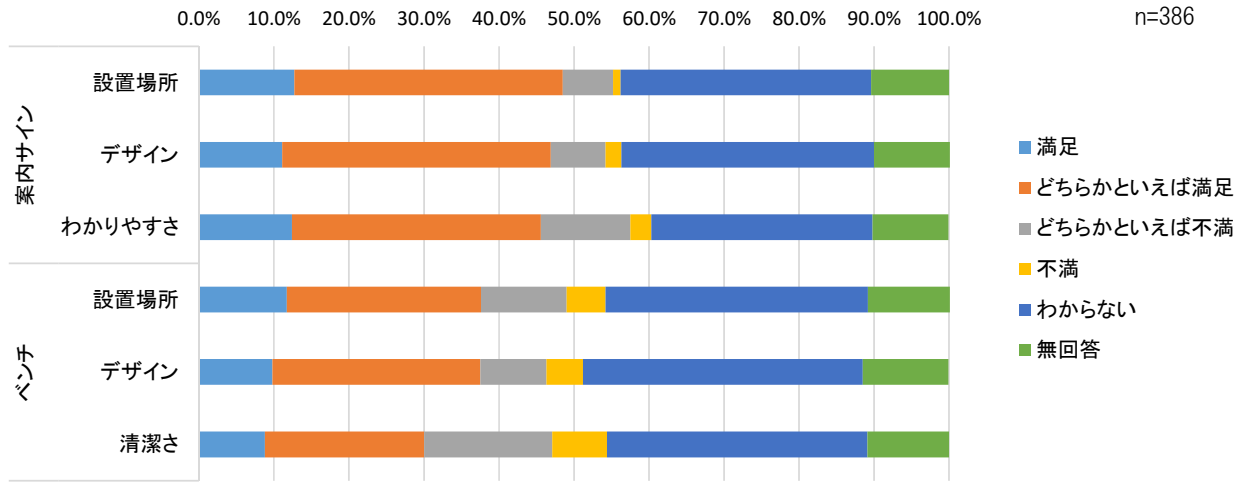
散歩やウォーキング、福岡城さくらまつりを目的に半数の人が利用しています。また、季節の花々の鑑賞やカフェ、レストランを目的に訪れる人も多いことがわかります。



③舞鶴公園、大濠公園の案内サインとベンチの満足度に係る意見

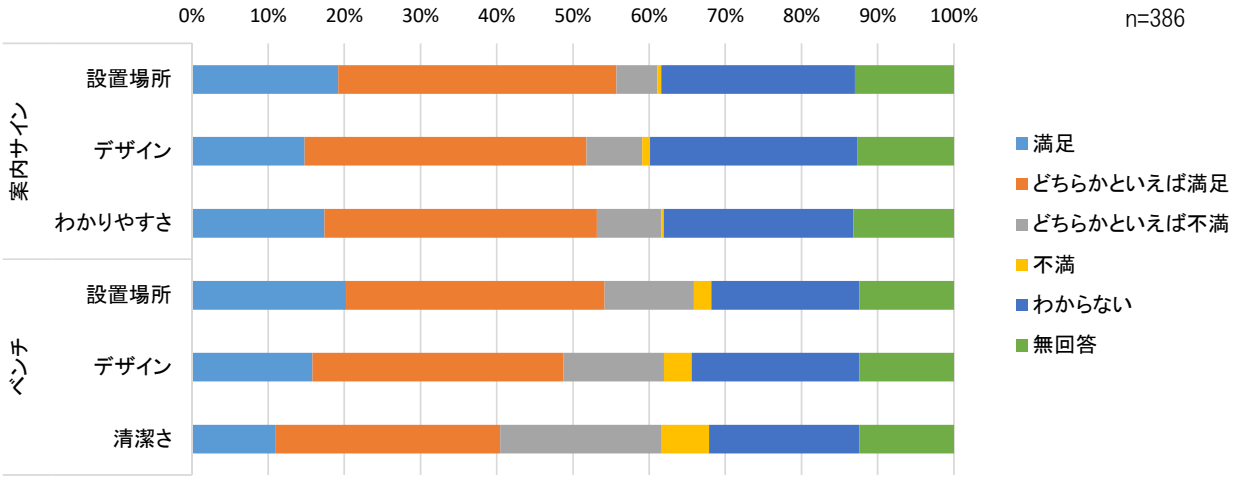
ア）舞鶴公園

サインに関して、約半数が満足していることがわかりますが、わかりやすさに関しては、不満の割合が増えています。ベンチに関しては、清潔さに対する不満の割合が多くなっています。



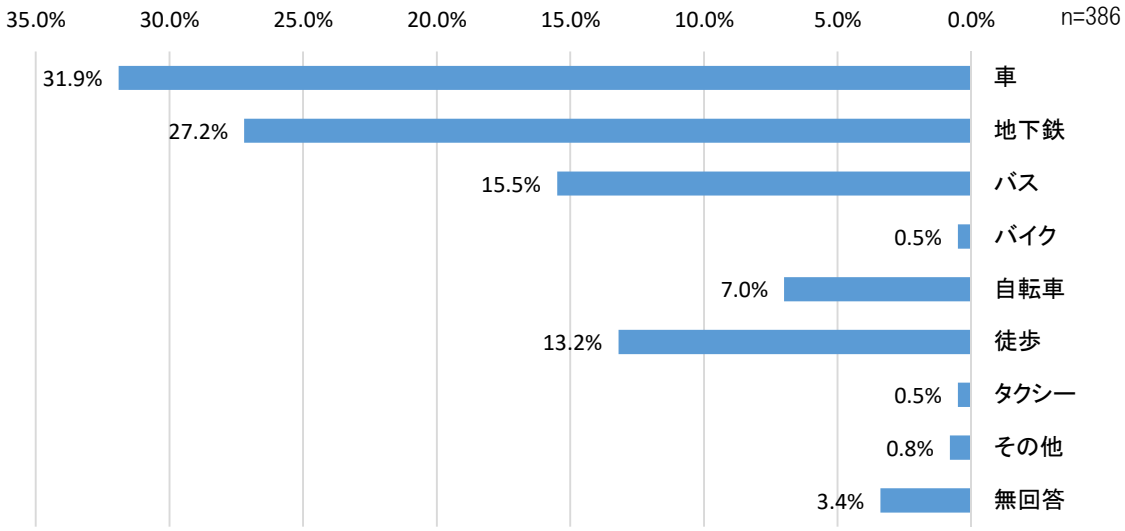
イ）大濠公園

サインに関して、半数以上が満足していることがわかります。ベンチに関しては、設置場所やデザインに関しては、約半数が満足していますが、舞鶴公園同様に、清潔さに対する不満の割合は多くなっています。



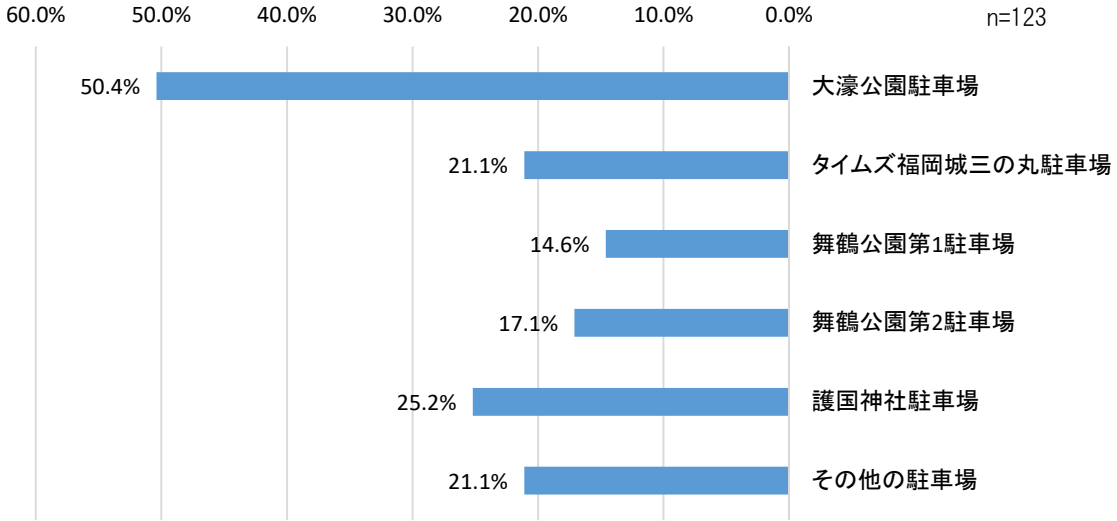
④舞鶴公園・大濠公園への交通手段に係る意見

車での来園が最も多く、次いで地下鉄、バスと公共交通機関での来園が多くなっています。４番目に徒歩という回答が多い事から、遠方から近隣まで広範囲から人々が訪れていると考えられます。



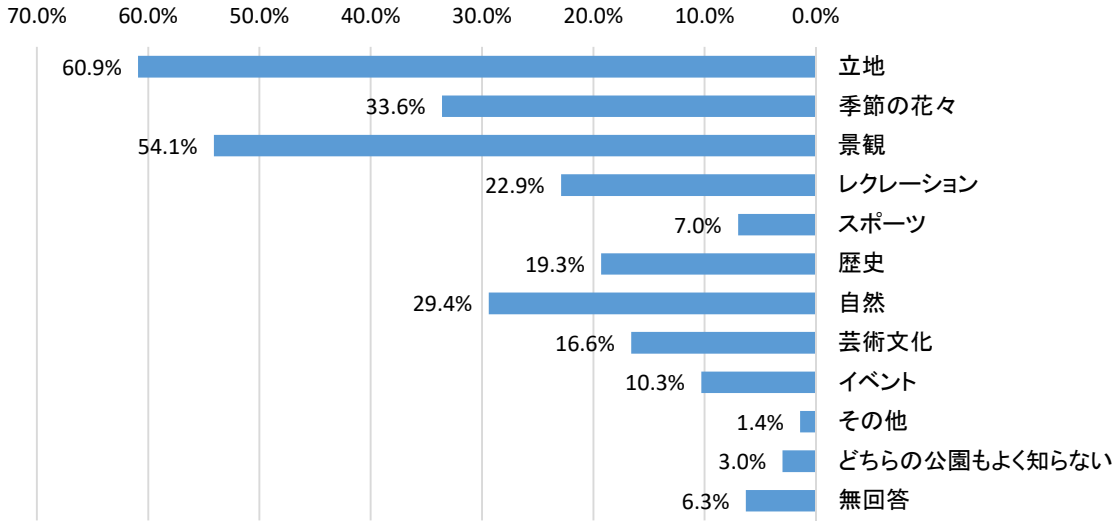
④ー１　利用駐車場に係る意見

大濠公園駐車場が半数以上の回答を占めており、舞鶴公園内の駐車場利用は低い割合となっています。



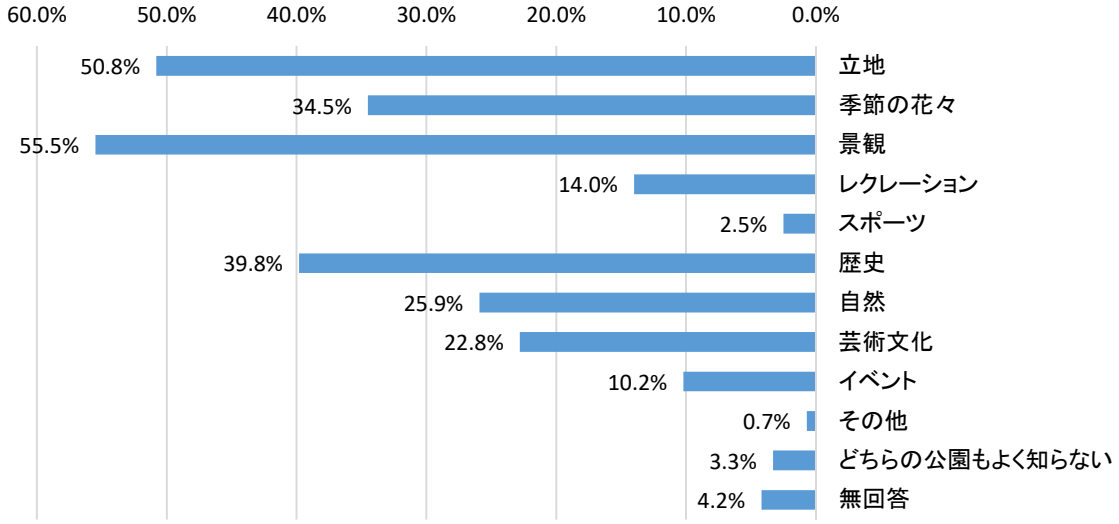
⑤舞鶴公園・大濠公園の魅力に係る意見

立地を挙げる意見が最も多く、次いで景観、季節の花々を挙げる意見が多いなど、都心部で水や緑豊かな景観を楽しめることが魅力の上位に挙げられています。反対に、歴史や芸術文化、スポーツを挙げる意見はやや低くなっています。



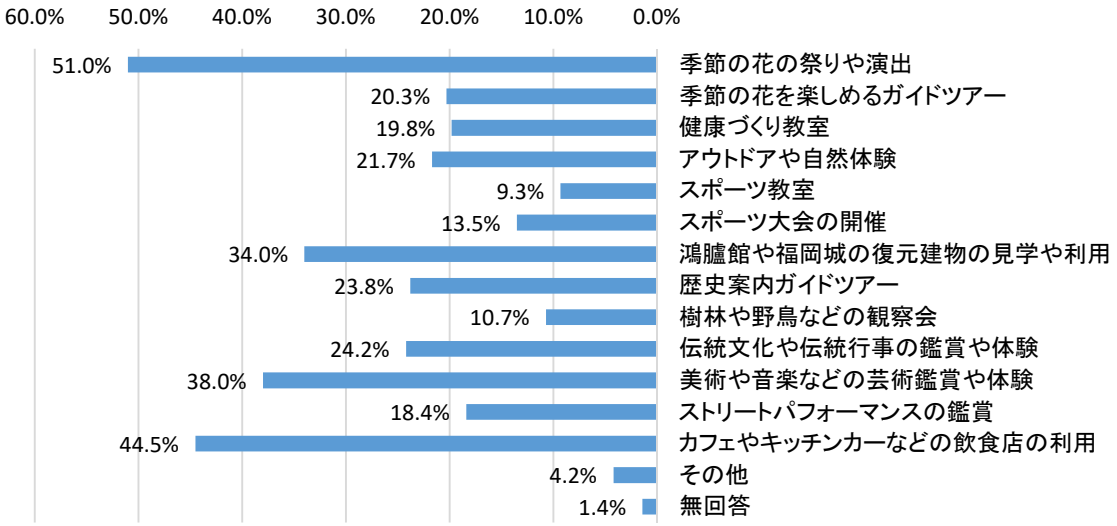
⑥観光客に勧めたい公園の魅力に係る意見

⑤同様に、立地と景観、季節の花々が上位に挙げられています。⑤と異なる点として、鴻臚館や福岡城などの歴史を挙げる意見が多くなっています。



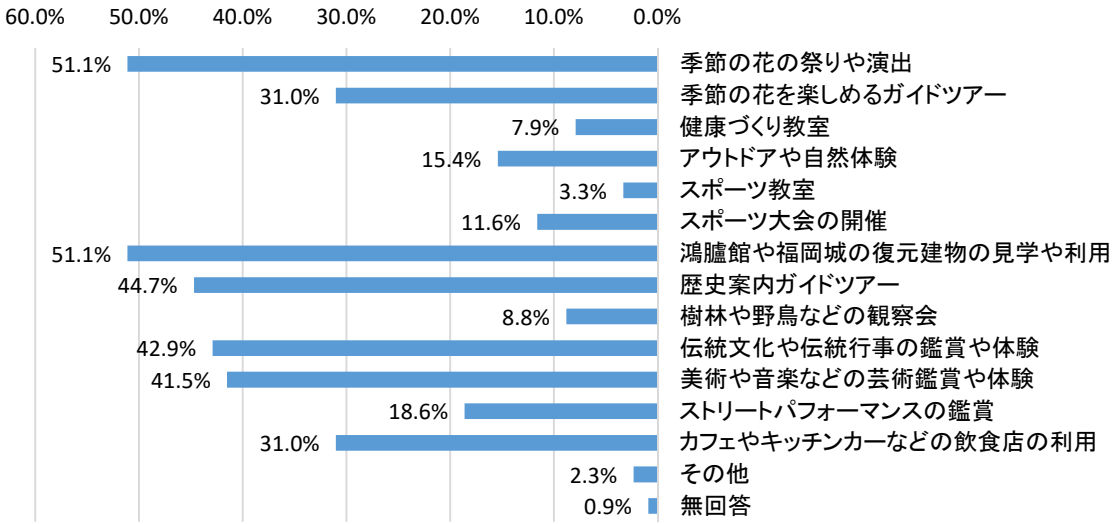
⑦今後、舞鶴公園・大濠公園で利用したいものやことに係る意見

季節の花の祭りや演出が半数以上を占め、カフェやキッチンカーなどの飲食店利用が次いで多くなっています。鴻臚館や福岡城の復元建物の見学や利用、芸術鑑賞や体験に関する意見も多くなっています。



⑧観光客に勧めたい、舞鶴公園・大濠公園の利用に係る意見

季節の花の祭りや演出、鴻臚館や福岡城の復元建物の見学や利用が最も多くなっています。他にも歴史案内ガイドツアーや伝統文化の鑑賞・体験、芸術鑑賞・体験の意見も４割以上であり、四季折々の魅力や歴史、芸術文化などの利用を勧めたいと認識されていることがわかります。



４．課題の整理

ここでは、両公園の特性や施設・管理運営面からみた現況、利用者の意見を踏まえ、周辺及び公園内の視点からセントラルパーク構想における４つの基本的な方向性ごとに課題を整理します。

４－１．周辺地域からの視点での課題

（１）空間をつなぐための課題

a)公園の雰囲気を都市に広げる緑の道づくり

福岡の都市がまるで公園の中にあるような雰囲気が感じられるよう、博多や天神、博多ふ頭・中央ふ頭などの福岡の都市の拠点と、大濠公園・舞鶴公園、西公園、南公園をはじめとする福岡の水と緑の拠点を結ぶ道において、緑豊かな景観が求められます。

b)水辺と緑の拠点間の見通しの確保

大濠公園・舞鶴公園と西公園、南公園との相互の見通しや、海辺の親水空間からの西公園への見通し、六本松からの護国神社への見通しなど、緑の拠点や水辺の拠点間の見通しを確保することで、周辺地域全体が緑と水に包まれているかのような雰囲気づくりが求められます。

c)主要施設間の歩行環境の向上

徒歩による回遊性の向上のため、都市公園や史跡、芸術文化施設、コンベンション施設などの主要施設をつなぐ歩行環境の向上が求められます。

（２）時をたどるための課題

a)海とのつながりの強化

大濠公園・舞鶴公園周辺は、鴻臚館をはじめとして古代より海からの来訪者を迎える玄関口として、福岡の都市の顔としての機能を有していました。現在は水辺に親しめる場所が少なく、古代からの都市の玄関口としての雰囲気を感じられる場所が少なくなっています。アジアのリーダー都市として海に開かれた福岡の魅力を伝える海辺づくりやアジアからの来訪者を出迎える機能の復元が求められます。

b)広域での文化財の連携

県内には鴻臚館や黒田家に関わりのある文化財が多く分布しています。そのため、この地域の歴史の重層性を感じられるモデルコースの設定や、ガイドツアーなどによる広域での回遊性の向上が求められます。

各施設の案内やパンフレットなどの情報ツールや、歴史イベントの開催などは、この地域に分布している各文化財間の連携を強化することで相乗効果を高めることが求められます。

c)歴史資源への見通しの確保と景観誘導

舞鶴公園周辺の道路からだけでなく、広い範囲で石垣や櫓、土塁などをはじめとした歴史資源への見通しを確保し、歴史豊かな福岡の都市の雰囲気を広範囲で感じられる雰囲気づくりが求められます。また、公園の歴史的景観と調和した周辺の街並みの景観誘導などが求められます。

（３）にぎわいをつくるための課題

a)公共交通機関との連携

公園への来園は地下鉄やバスなどの公共交通機関の利用を基本とするため、今後、より多くの県民・市民に親しまれる公園としていくためにも、公共交通機関と連携したアクセス環境の改善が求められます。また、県外や海外からの観光客が、空港や港から安心して来園できるためのアクセス環境の改善も求められます。

舞鶴公園の福岡城さくらまつりなど、大規模なイベントを行う際にもスムーズにアクセスできる交通環境の改善が求められます。

b)周辺地域の芸術文化施設との連携

福岡市美術館や能楽堂などの芸術文化施設は、各施設での活動や公園内の施設間連携だけにとどまらず、周辺の美術館や博物館などとの連携も強化することで相乗効果を高めることが求められます。

c)両公園や園内便益施設、近隣施設等の連携向上

現在、公園や芸術文化施設、近隣施設において個別で行われているイベント・利用プログラム・情報発信の連携により、公園と一体となったより賑わい溢れるイベント・利用プログラムの実施が求められます。

（４）みんなで育てるための課題

a)水辺と緑の拠点との連携

九州大学六本松キャンパス跡地をはじめとする大濠公園・舞鶴公園周辺における大規模な開発の際には、大濠公園・舞鶴公園、西公園、南公園と連なる福岡の新たな緑の拠点としての連携が求められます。また、これらの緑の拠点が一体となって形成する福岡の中央緑地帯の終点として、海辺の親水空間の確保が求められます。

b)公園周辺の立地の活用と連携

大濠公園・舞鶴公園周辺の明治通り沿線では、公園に隣接する立地を活かしたスポーツショップや飲食店などの施設の立地や、イベントにおける連携などが求められます。

c)公園敷地外の公有地や民有地の有効活用

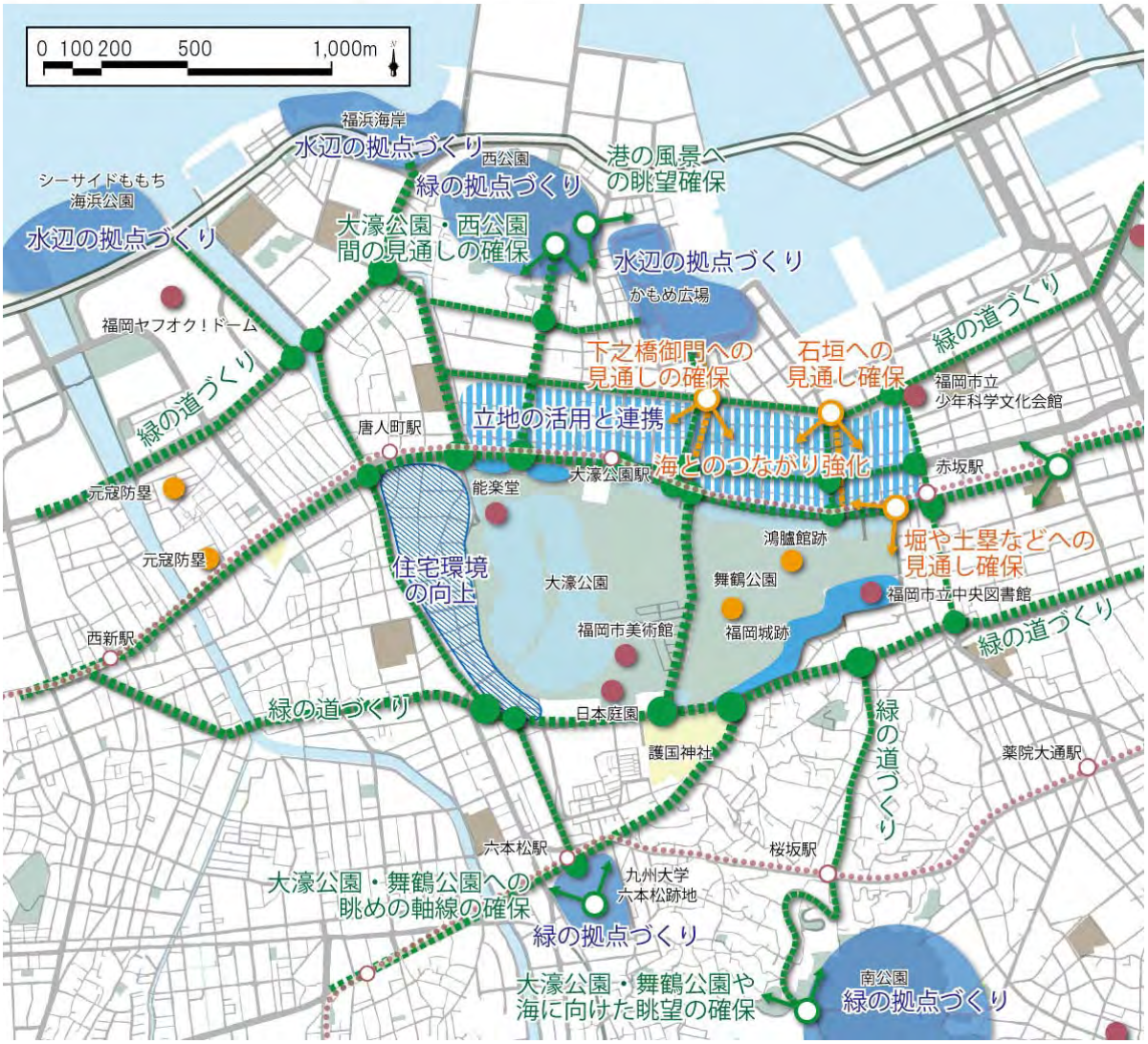
舞鶴公園南東側の、元々は福岡城の堀であった範囲は、現在ではその名残を感じにくい状況となっています。公園や城跡のイメージを感じられるよう、周辺の公有地や民有地の有効活用が求められます。

d)住宅環境への配慮

大濠公園・舞鶴公園に隣接する住宅地に対しては、公園内で発生した騒音への対処や、大規模なイベント時における周辺宅地への影響の軽減が求められます。

（５）課題のまとめ

課　題		
空間をつなぐための課題		a)公園の雰囲気を都市に広げる緑の道づくり
		b)水辺と緑の拠点間の見通しの確保
		c)主要施設間の歩行環境の向上
時をたどるための課題		a)海とのつながりの強化
		b)広域での文化財の連携
		c)歴史資源への見通しの確保と景観誘導
にぎわいをつくるための課題		a)公共交通機関との連携
		b)周辺地域の芸術文化施設との連携
	公園近隣	c)両公園や園内便益施設、近隣施設等の連携向上
みんなで育てるための課題		a)水辺と緑の拠点との連携
		b)公園周辺の立地の活用と連携
		c)公園敷地外の公有地や民有地の有効活用
		d)住宅環境への配慮



４－２．両公園における課題

（１）空間をつなぐための課題

a)両公園間をつなぐ園路の機能強化

大濠公園と舞鶴公園をつなぐ園路が少ないことから、両公園を分かりやすく行き来できる園路の確保が求められます。特にくじら公園周辺は、主要な出入口と隣接する場所として、両公園のつながりを演出し、印象付けるような整備が求められます。

b)両公園全体での回遊動線の確保

利用者が大濠公園の周回園路に集中していることから、安全で魅力的な回遊動線の確保によって、両公園全体でバランスよく利用できるようにすることが求められます。

また、大濠公園の周回園路は歩行者やジョギング、自転車、ペットの散歩など、目的に応じて通行レーンを区分していますが、十分に守られているとは言えません。利用者意見の中でも安全で快適に利用できる環境を求める声が多く寄せられているように、ハード・ソフト含めて誰もが利用しやすい環境整備が求められます。

c)舞鶴公園南側を周回できる園路の確保

舞鶴公園の南側は土塁により高低差が大きく、未舗装で小幅員の散策路しかありませんが、両公園全体を一体的に周回できる歩きやすい園路の設置が求められます。

d)両公園の景観的つながりと見通しの確保

両公園を一体的に活用するためには、舞鶴公園から大濠公園の水面が見えるよう、景観的つながりと見通しの確保に配慮した樹木の整理が求められます。また、樹木の密度が高すぎる箇所については、樹木が健全に生育しやすいよう、樹木の密度管理が求められます。

e)舞鶴公園線を横断する動線の確保

公園利用者の動線が都市計画道路舞鶴公園線で分断されているため、スムーズに行き来するための対策が求められます。

また、舞鶴公園線の沿線においては、街路樹再配置や電線地中化なども含め、公園と道路空間を合わせた再整備により、文化財との景観的な一体感や利用上の一体性へ配慮した空間づくりが求められます。

f)構造物のデザイン等の統一

これまで両公園の整備において様々なデザインの施設が設置され、統一感がなく、分かりにくい状況になっていたため、今後は施設におけるデザインコンセプトを定め、両公園において調和のとれたデザインが求められます。

g)外国人観光客も含めた公園利用案内の充実

来園者の多様な利用目的に対応したリアルタイムの情報発信や、両公園の統一したルールづくりなどが求められます。

また、近年増加している海外からの観光客が公園内を快適に散策できるよう、外国語表記に対応した情報媒体の作成・設置のほか、インターネット接続環境の構築が求められます。

h)福岡高等裁判所跡地の活用

福岡高等裁判所移転後の跡地は、別途具体的な検討が進められますが、本計画においては、エントランスエリアとして拠点となる施設や、防災機能、駐車場機能などの検討が求められます。

i)舞鶴中学校跡及び城内住宅跡地の活用

舞鶴中学校や城内住宅については、移転完了までの暫定活用に加え、移転跡地の整備内容や活用内容の具体化が求められます。

j)運動施設跡地の活用

球技場、野球場、テニスコートなどの史跡指定地内の運動施設については、公園や史跡の整備段階に合わせた移転に向けて、移転跡地の整備内容や活用内容の具体化が求められます。

k)防災機能の向上

両公園は広域避難場所となっていることから、災害時の避難場所としての広場整備や、避難経路としての動線確保、給排水・電気・照明設備などの機能確保などにより、防災機能の向上が求められます。

また、公園利用者が夜間でも安全に利用できるや照明計画や、死角をつくりにくい植栽計画など、日常的にも安全・安心に利用できる空間づくりや取組みが求められます。

l)生物の生息環境への配慮

両公園は都心部の中で貴重な自然を有することから、生物の生息環境として重要な役割を担っています。両公園の整備にあたっては、希少生物を含む多様な生物の生育環境への配慮や、生物について学ぶ場としての環境づくりが求められます。また、ミドリガメをはじめとした外来生物の対策による在来種の生態系への影響を減らす取組みが求められます。

m)自然とふれあう場の形成

例えば大濠公園の野鳥の森では、野鳥が住みやすい環境の管理が行われています。このように来園者が自然とふれあう環境づくりが求められます。

n)堀の水質の保全と向上

大濠池における水質向上の取組みの継続にあわせて、舞鶴公園においても浄化設備の強化や定期的なモニタリング等による堀や水路の水質の改善などが求められます。

o)安全で親しみやすい水辺環境の確保

大濠公園の周回園路や舞鶴公園の堀沿いを利用する人、水辺のベンチで休憩する人などが、水面を身近に感じ、水に親しんでもらうための施設整備や、水景としての魅力の向上など、より水辺を楽しめるような環境づくりが求められます。

（２）時をたどるための課題

a)歴史の重層性が表現できる史跡の復元整備

利用者意見の中でも史跡の復元を望む声は多く寄せられています。貴重な歴史の理解を深めるためにも、鴻臚館跡及び福岡城跡の積極的な復元整備が求められます。

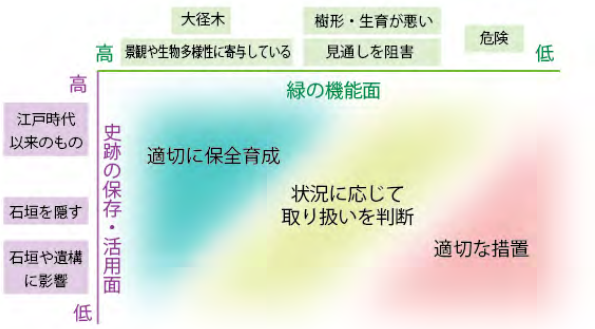
また、利用者が古代の史跡鴻臚館跡と近世の史跡福岡城跡、近代の記念物大濠公園という古代から近代につながる福岡の歴史の重層性を感じることができる表現が求められています。特に、鴻臚館跡の全体像を眺めることができる場所や、福岡城跡の長大な石垣を眺めることができる場所が少ないことから、史跡の全体構成を感じることができる視点場の確保が求められます。

b)公園と史跡の両立

公園利用者にとっては便利な動線であってもその踏圧によって土塁が毀損している場所や、緑が石垣の保存に影響を与えている場所などが見られるため、公園と史跡が両立した整備が求められます。

c)樹木類適正管理プログラムの作成

公園内の樹木は都市空間に潤いを持たせている一方で、遺構を遮蔽しているものもあります。樹勢や樹形、景観や生物多様性など緑の機能面と、史跡の保存・活用面からの整理を行ったうえで、樹木を適正に管理するプログラムの作成が求められます。



d)復元整備に合わせた樹木整理や移植

鴻臚館跡や福岡城跡の復元の際には既存樹木の適切な整理や移植が求められます。

e)石垣や櫓への眺めを遮る樹木類の適正な管理

本丸・二ノ丸を中心とした福岡城跡の史跡指定区域内では、石垣や櫓などの見所が最も魅力的に見えるよう、樹木の適正な管理（剪定、伐採）が求められます。

（３）にぎわいをつくるための課題

a)駐車環境の向上

大濠公園の駐車場は利用者が多く、休日はほぼ満車の状態です。今後の公園整備に伴って公園利用者数が増えることを想定したうえで、両公園に自家用車や大型バスで訪れた人々が快適に利用できる駐車環境の整備に加え、両公園間の駐車場運営や公園周辺の駐車場経営者との連携が求められます。

b)公園周辺からの入口のわかりやすさの向上

明治通り側から史跡の雰囲気を感じにくく、公園の入口もわかりにくいため、沿道からも史跡の雰囲気を感じやすく、わかりやすくて入りやすい公園の顔としての整備が求められます。

両公園の南側は国体道路に接している範囲が狭く、入口がわかりにくいため、国体道路の歩行者が出入口の存在に気づきやすいようなエントランス機能の強化が求められます。

舞鶴公園東側入口は、東側からの唯一の出入り口であることから、公園の入口としての存在がわかりやすく、明るく、入りやすい空間の整備が求められます。また、災害時の避難経路を想定した、適切な園路幅員の確保が求められます。

c)公園内外の芸術文化施設の連携

福岡市美術館、能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設は、施設間での情報連携やイベントでの連携の向上が求められます。また、施設内で行われていた芸術文化活動が、施設外や公園周辺にも広がりを見せ、公園全体が芸術文化の雰囲気を感じられる空間づくりが求められます。

d)芸術文化施設へのアプローチのしやすさの向上

公園内の芸術文化施設には、地下鉄大濠公園駅や近隣のバス停などからは公園内を歩いてアプローチすることになります。そのため、近隣の駅やバス停、道路からの分かりやすさの向上や公園内からのアプローチのしやすさの向上が求められます。

e)日本庭園の認知度の向上

大濠公園の日本庭園は、周回園路の歩行者が日本庭園の存在や中の雰囲気を感じにくい構造となっており、日本庭園の存在に気付きにくい状況となっています。

日本庭園の存在に気付きやすく、認知度を高めるような工夫が求められます。

f)公園施設の更新

公園内の諸施設は、施設の老朽化や史跡の復元整備に合わせて、公園や史跡と調和するものへのリニューアルや再配置が求められます。

g)便益施設の充実

平成26年に実施したパブリックコメントや平成30年の市政アンケートでは、飲食店の設置に係る意見が最も多く寄せられました。県民・市民の意見を反映し、より親しまれる公園にしていくため、飲食店をはじめとした便益施設の充実が求められています。

また、トイレなどの諸施設についても来園者が気持ちよく利用できるような適切な配置や質の向上が求められます。

h)ガイダンス施設の充実

現在、両公園の様々な魅力を一体的に伝えることができる施設が無いため、両公園の魅力をわかりやすく伝える施設が求められています。

i)芸術文化活動が行える小広場空間の確保

各芸術文化施設内で行われている活動が公園内の色々な場所に広がり、両公園全体が芸術文化の雰囲気に包まれるよう、芸術文化活動が行いやすい小広場空間の確保や仕組みづくりが求められます。

j)大規模なイベントを実施できる広場空間の確保

福岡の都心部ではイベントを実施する際に場所や面積の制約があり、大規模なイベントを実施し難い状況にあります。そのため、都心部に近い貴重なオープンスペースである両公園は、大規模なイベントを実施することができる機能をもった広場空間の確保が求められます。

また、周辺で行われているイベントとの連携を強化することで相乗効果を高めることが求められます。

k)夜間利用も含めた魅力の向上

歴史的建造物や水辺空間、季節の花々等については、夜間でもその魅力を感じることができるよう演出照明等の設置が求められます。

l)両公園の特性を活かしたイベント・利用プログラムの充実

現在行われている集客イベントをはじめ、歴史、自然環境に関するイベント・利用プログラムなど、両公園の特性を活かしながら、利用者のニーズを的確に捉えた企画の充実が求められます。

（４）みんなで育てるための課題

a)地域連携に向けた体制づくり

現在、大濠公園で実施されている、地域や福祉施設等と連携した公園内外の清掃や花壇管理等の取り組みについて、両公園が一体となった定期的な協議の場や、活動の受け入れ体制づくりが求められます。

b)ボランティア活動を育む仕組み・施設の充実

現在のボランティア活動の発展に加え、ボランティア参加者の多様なニーズに合わせた活動テーマの設定、ボランティア同士が交流・連携する仕組みや、これらの活動の効果を上げるための拠点となる施設整備が求められます。

c)民間活力の導入

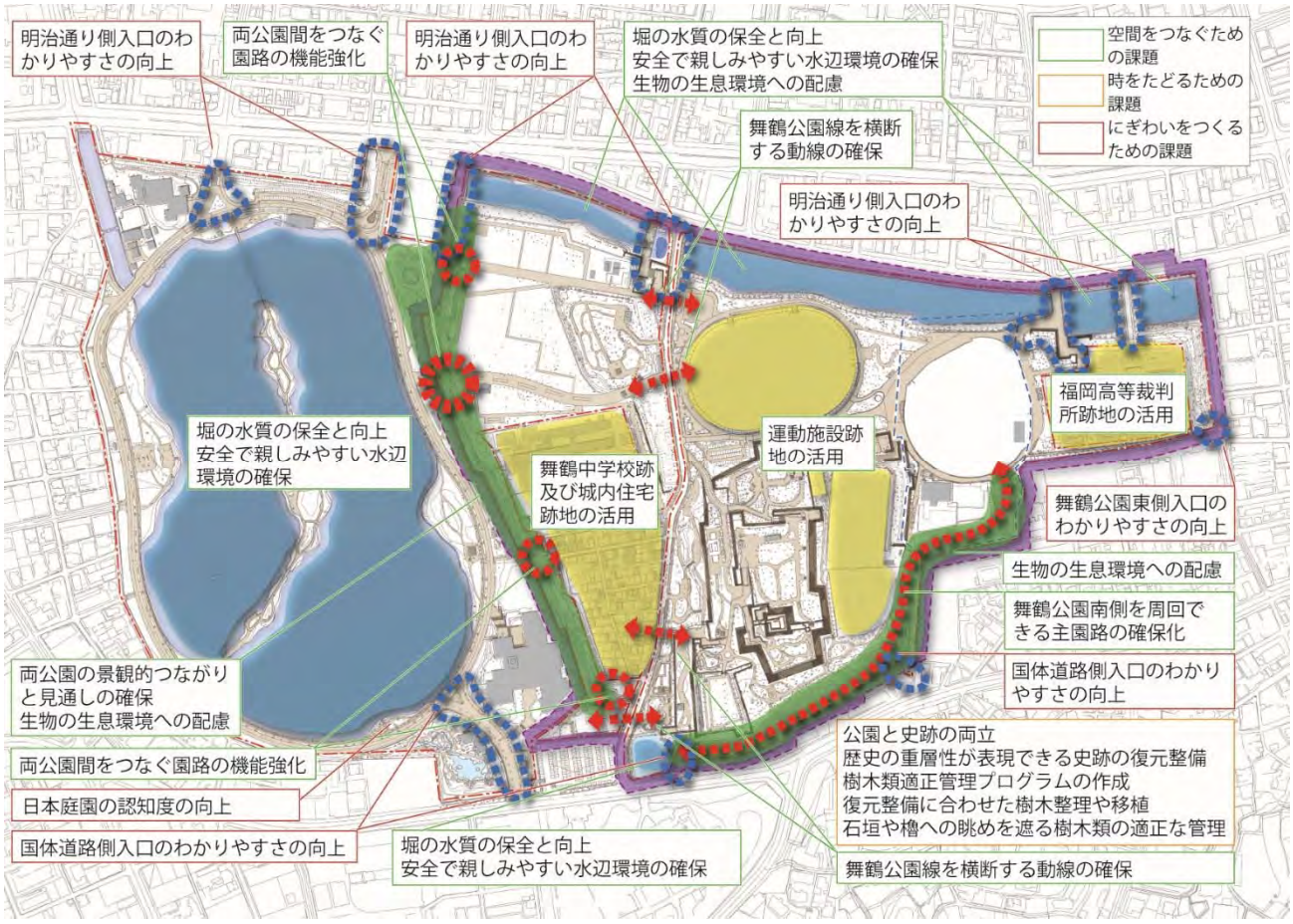
公園内におけるボートハウスや売店等の既存の施設との連携向上はもとより、公園の管理・運営を支えるための、企業にとっては社会的イメージの向上や収益獲得につながる、セントラルパーク支援制度の取組みが求められます。なお、将来に向けては様々な寄付や支援の仕組みづくりが重要となります。

d)福岡県と福岡市の連携強化

両公園を一体的に活用していくため、県市の関係部署や、両公園の指定管理者などによる連絡体制の強化が求められます。

（5）課題のまとめ

区分	課題	対象箇所
空間をつなぐ	a)両公園間をつなぐ園路の機能強化	両公園境界部
	b)両公園全体での回遊動線の確保	両公園全体
	c)舞鶴公園南側を周回できる園路の確保	舞鶴公園南側
	d)両公園の景観的つながりと見通しの確保	両公園境界部
	e)舞鶴公園線を横断する動線の確保	舞鶴公園線周辺
	f)構造物のデザイン等の統一	両公園全体
	g)外国人観光客も含めた公園利用案内の充実	
	h)福岡高等裁判所跡地の活用	移転跡地
	i)舞鶴中学校跡及び城内住宅跡地の活用	
	j)運動施設跡地の活用	
	k)防災機能の向上	両公園全体
	l)生物の生息環境への配慮	
	m)自然とふれあう場の形成	
	n)堀の水質の保全と向上	両公園内の水辺
	o)安全で親しみやすい水辺環境の確保	
時をたどる	a)歴史の重層性が表現できる史跡の復元整備	史跡指定地全体
	b)公園と史跡の両立	
	c)樹木類適正管理プログラムの作成	
	d)復元整備に合わせた樹木整理や移植	
	e)石垣や櫓への眺めを遮る樹木類の適正な管理	
にぎわいをつくる	a)駐車環境の向上	両公園周辺
	b)公園周辺からの入口のわかりやすさの向上	両公園北側・南側 舞鶴公園東側
	c)公園内外の芸術文化施設の連携	芸術文化施設
	d)芸術文化施設へのアプローチのしやすさの向上	芸術文化施設周辺
	e)日本庭園の認知度向上	大濠公園南側
	f)公園施設の更新	両公園全体
	g)便益施設の充実	
	h)ガイダンス施設の充実	
	i)芸術文化活動が行える小広場空間の確保	大濠公園東側
	j)大規模なイベントを実施できる広場空間の確保	移転跡地他
	k)夜間利用も含めた魅力の向上	両公園全体
	l)両公園の特性を活かしたイベント･利用プログラムの充実	
みんなで育てる	a)地域連携に向けた体制づくり	福岡県・福岡市
	b)ボランティア活動を育む仕組み･施設の充実	両公園
	c)民間活力の導入	両公園周辺
	d)福岡県と福岡市の連携強化	福岡県・福岡市



図：両公園の課題位置図

（公園の全体やソフトに関わる課題は除く）